

表 5.2.1 事業区域周辺（片幅約 500m 以内）の高層建築物の基礎深さとの調査結果（首都圏）

番号	建築物	地上階数	地下階数	事業区域との平面距離	基礎形式	基礎深さ	支持地盤（推定）	特定した支持地盤標高
①	品川区総合庁舎	8	2	0.4km	場所打ち杭	G. L. -22.0m	東京礫層	T. P. -17m
②	民間建築物	18	1	0.1km	場所打ち杭	G. L. -23.0m	東京礫層	T. P. -7m
③	民間建築物	9	0	0.0km	場所打ち杭	G. L. -16.0m	東京礫層	T. P. -6m
④	川崎市営千年新町住宅 2 号棟	10	0	0.3km	場所打ち杭	G. L. -23.6m	上総層群	T. P. -23m
⑤	川崎市営菅生住宅 1 号棟	7	0	0.1km	場所打ち杭	G. L. -14.7m	上総層群	T. P. +42m

※番号②及び③は民間建築物のため、名称非掲載

表 5.2.2 事業区域周辺（片幅約 500m 以内）の高層建築物の基礎深さとの調査結果（中部圏）

番号	建築物	地上階数	地下階数	事業区域との平面距離	基礎形式	基礎深さ		支持地盤（推定）	特定した支持地盤標高
						G. L.	T. P.		
①	民間建築物	12	0	0.1km	場所打ち杭	G. L. -39.0m	T. P. +43m	矢田川累層	T. P. +37m
②	愛知県営神領住宅 10 棟	8	0	0.3km	フーチング基礎	G. L. -2.3m	T. P. +31m	沖積層（南陽層）	T. P. -8m
③	サニーコート春日井	7	0	0.5km	フーチング基礎	G. L. -2.0m	T. P. +19m	沖積層（南陽層）	T. P. -7m
⑤	愛知県営松河戸住宅	7	0	0.2km	フーチング基礎	G. L. -2.0m	T. P. +12m	沖積層（南陽層）	T. P. -13m
⑦	名古屋市役所西庁舎	13	3	0.1km	直接基礎	G. L. -18.2m	T. P. -4.2m	熱田層	T. P. -26m

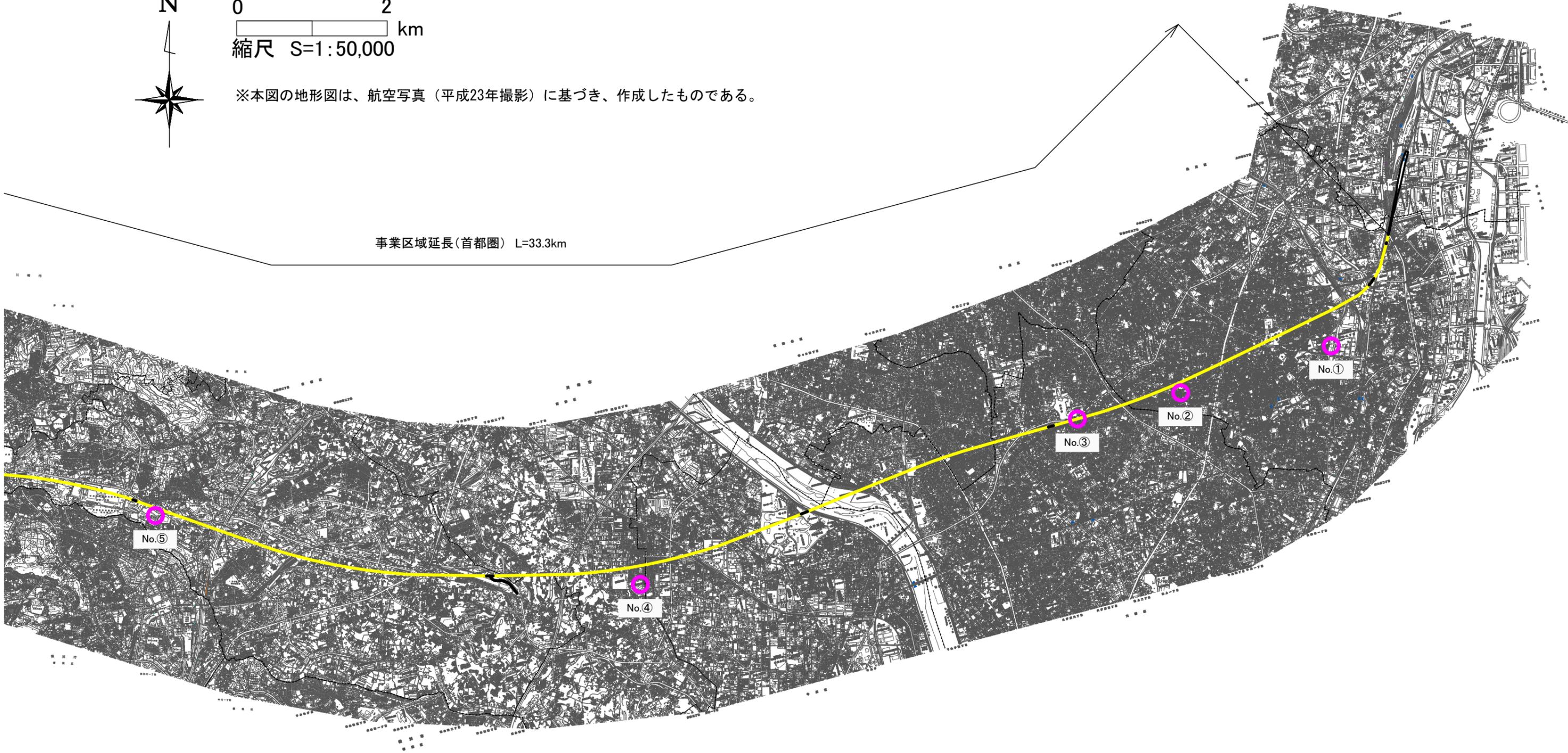
※番号は、表 4.2.1、表 4.2.2 と同じ番号をしている。番号①は、民間建築物のため、名称非掲載



0 2
km
縮尺 S=1:50,000

※本図の地形図は、航空写真（平成23年撮影）に基づき、作成したものである。

事業区域延長(首都圏) L=33.3km



凡例

-  大深度地下使用申請区域
-  大深度地下使用申請区域外
-  基礎状況を確認した高層建築物

図5.2.1 高層建築物基礎状況確認位置図(首都圏)

事業区域延長(中部圏) L=17.0km



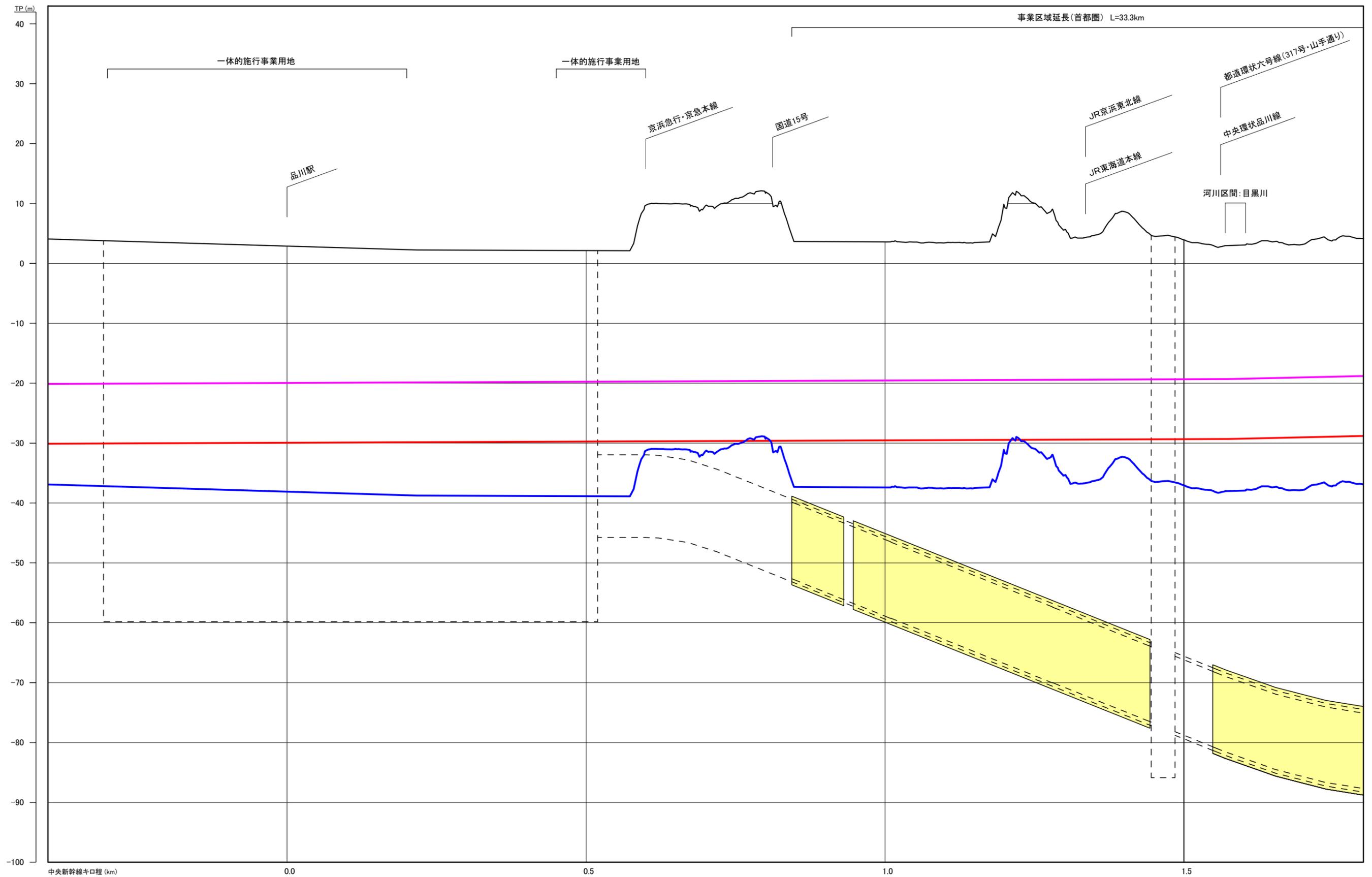
0 1 2 km
縮尺 S=1:50,000

凡例

- 大深度地下使用申請区域
- 大深度地下使用申請区域外
- 基礎状況を確認した高層建築物

※本図の地形図は、航空写真(平成23年撮影)に基づき、作成したものである。

図5.2.2 高層建築物基礎状況確認位置図(中部圏)



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

図5. 4. 1 大深度地下特定縦断図(首都圏 1 / 22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600

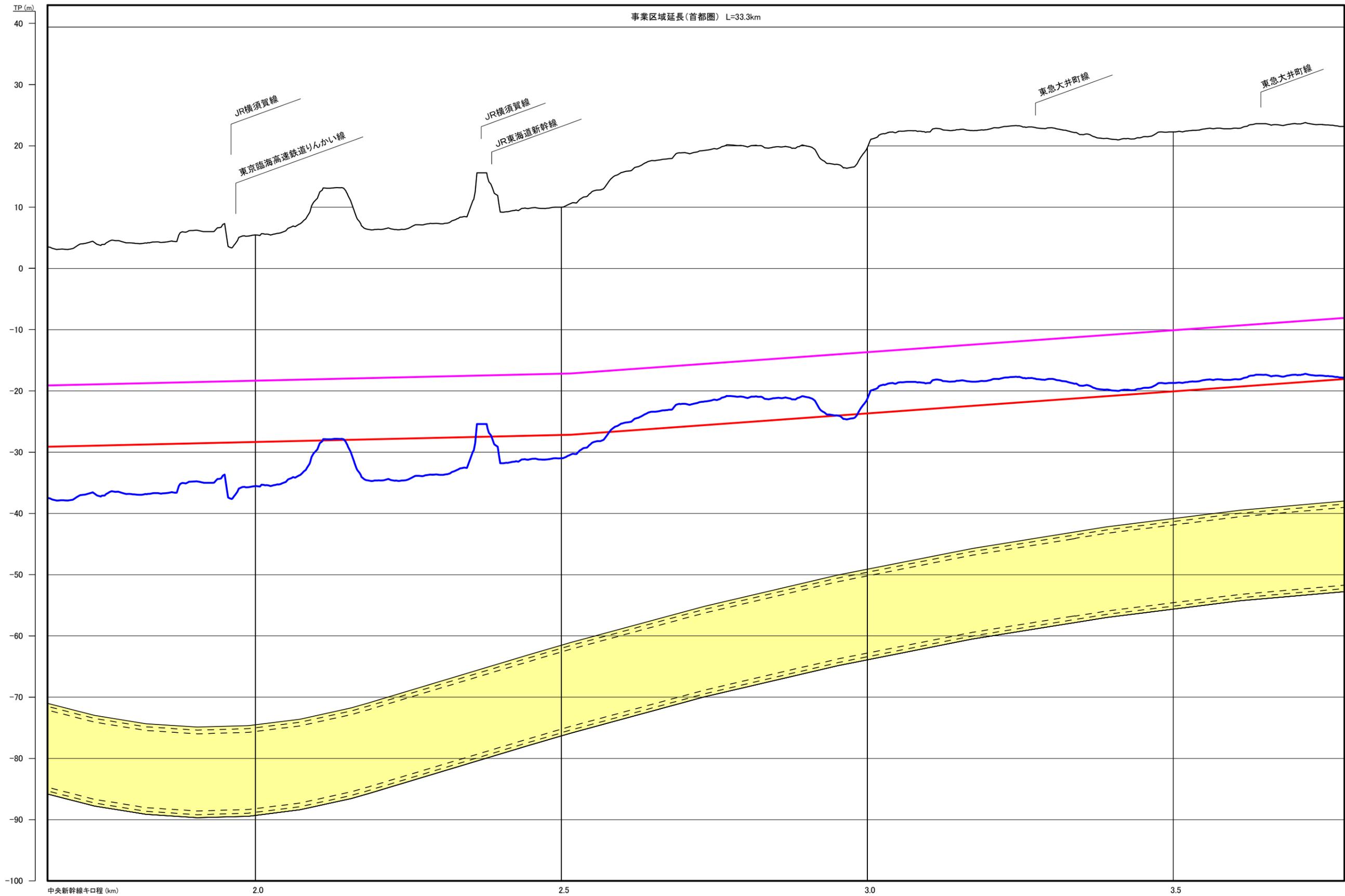
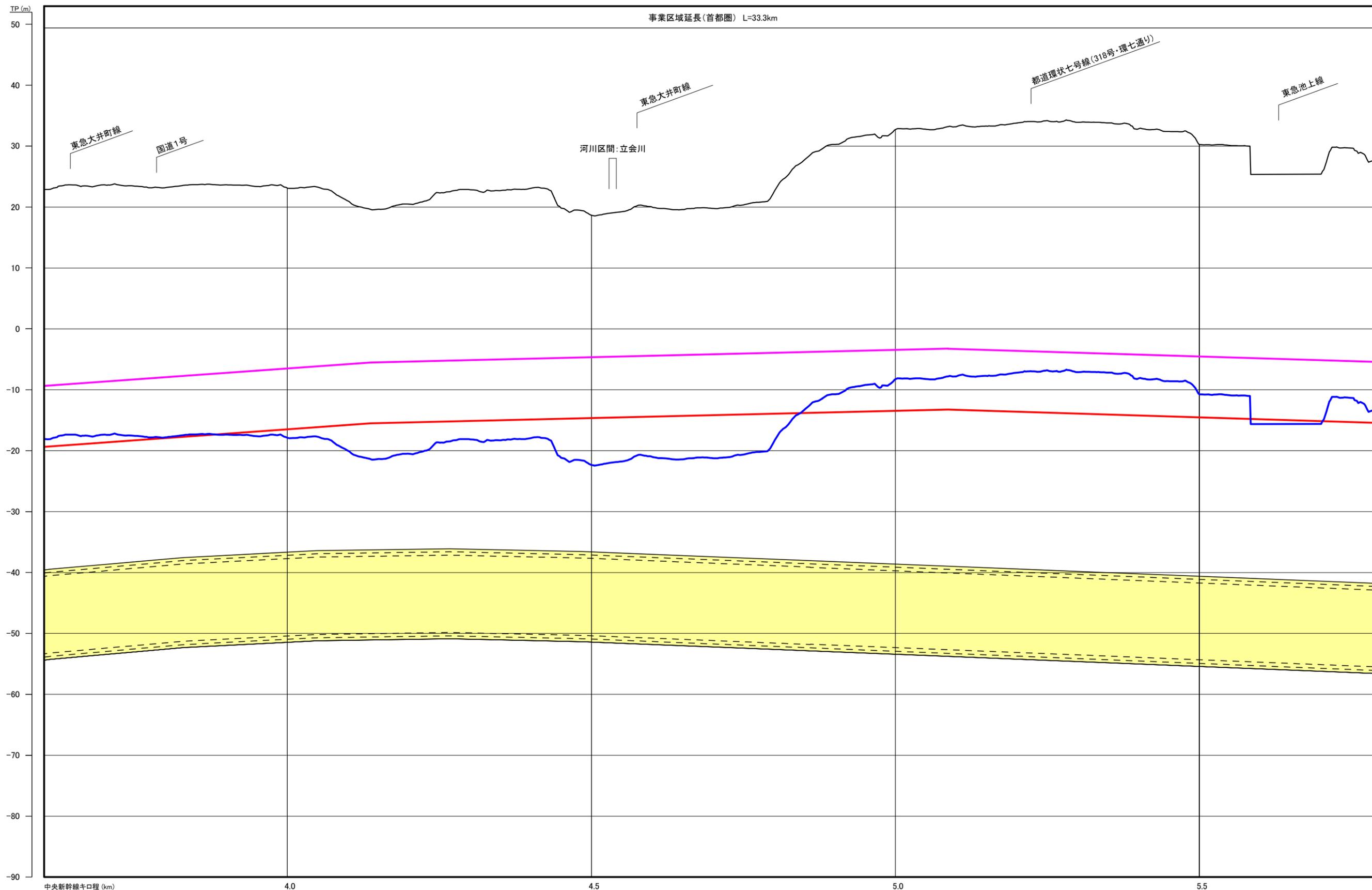


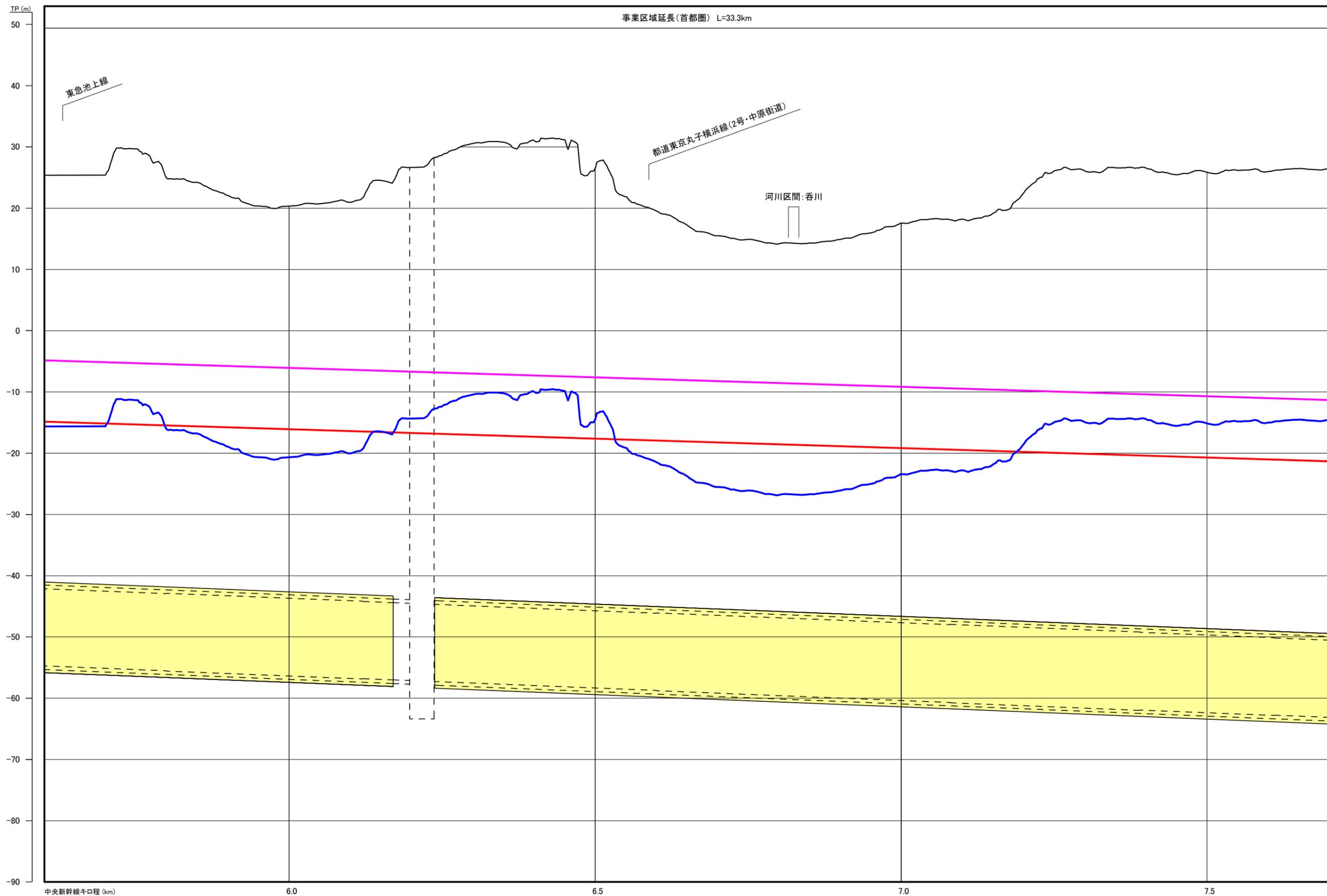
図5.4.2 大深度地下特定縦断図(首都圏 2/22) 縮尺 H = 1:6,000, V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

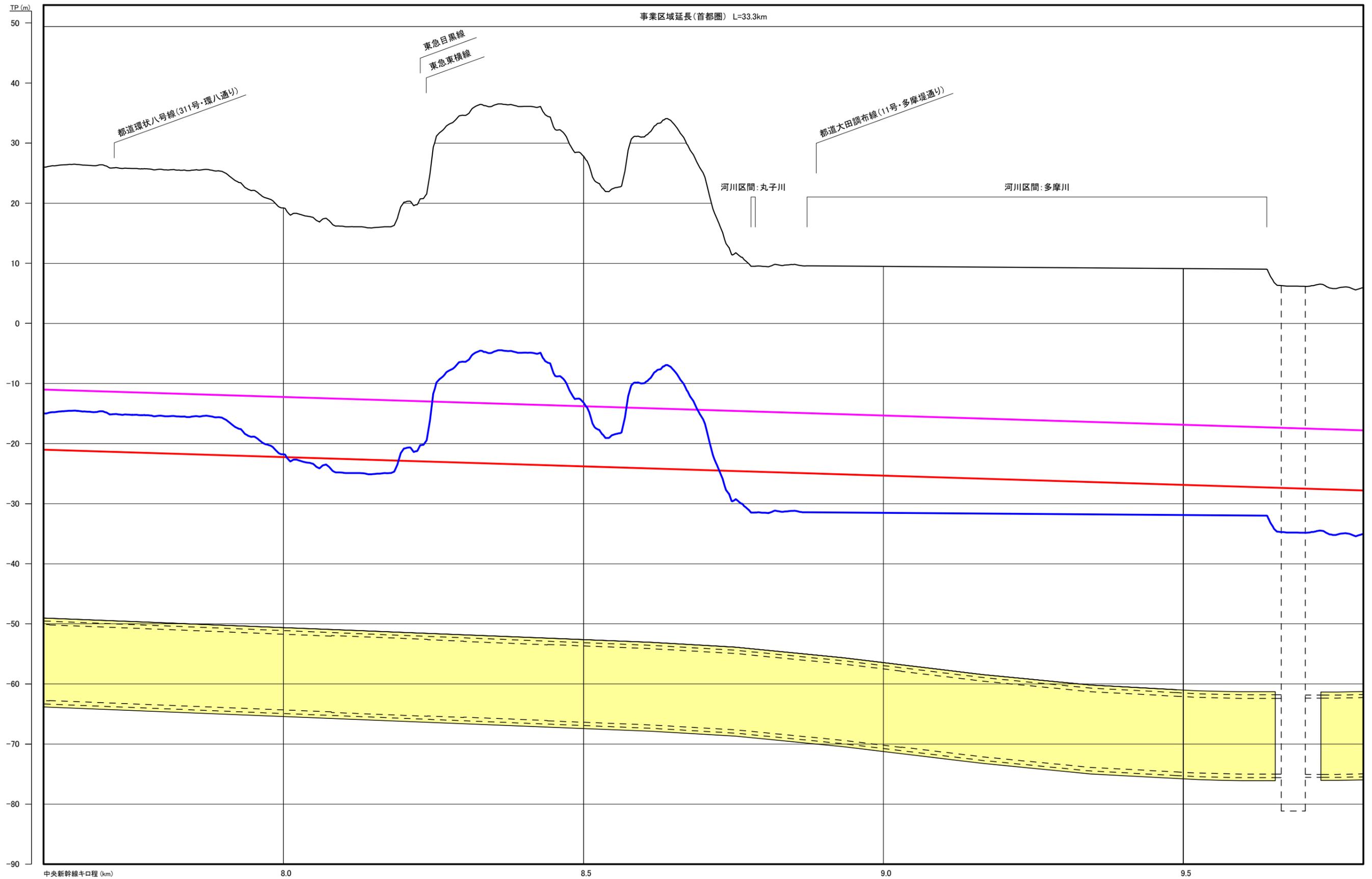
図5. 4. 3 大深度地下特定縦断図(首都圏 3 / 22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

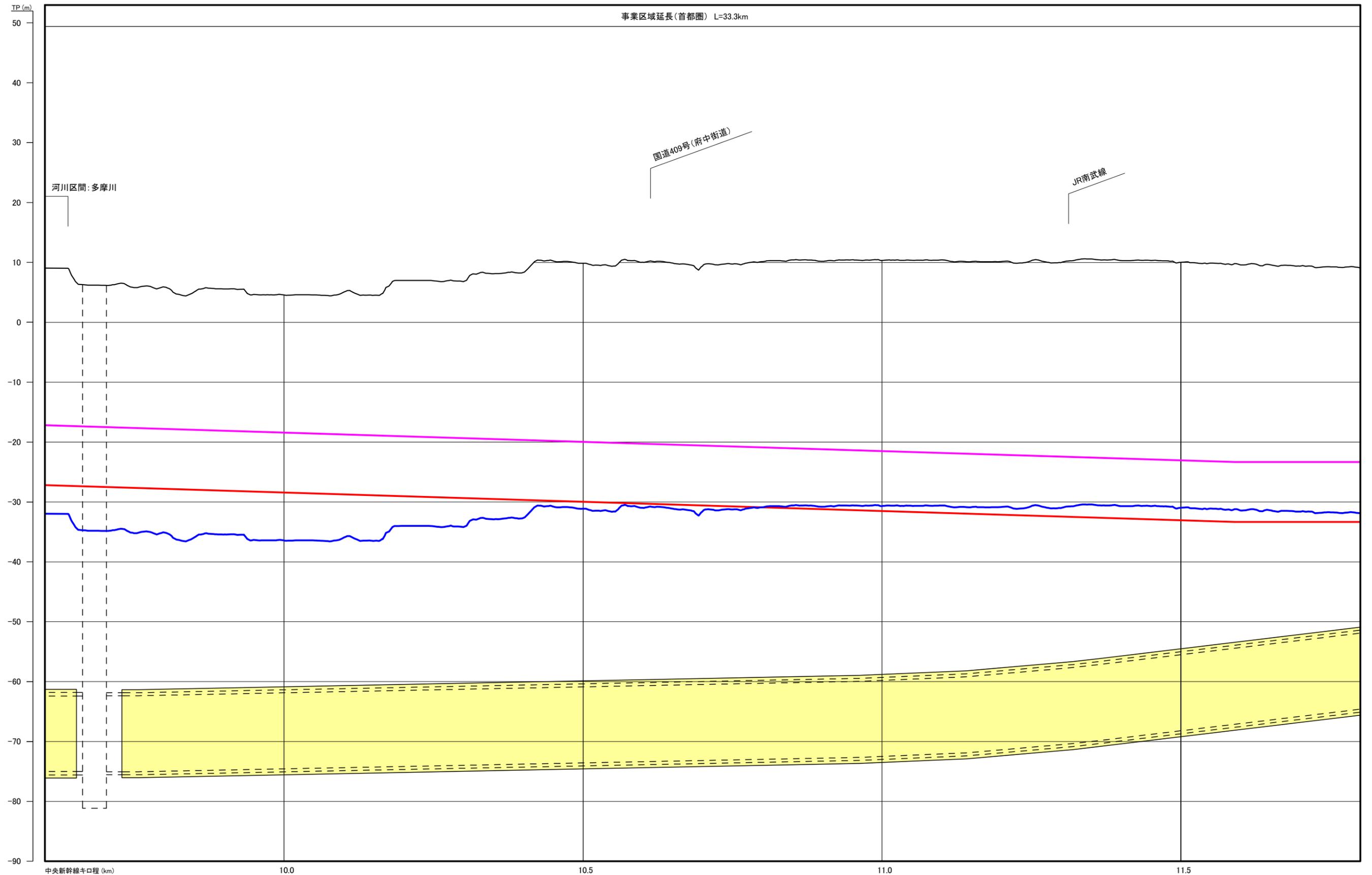
図5. 4. 4 大深度地下特定縦断図(首都圏 4 / 22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

図5. 4. 5 大深度地下特定縦断図(首都圏 5 / 22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



事業区域延長(首都圏) L=33.3km

河川区間: 多摩川

国道409号(府中街道)

JR南武線

中央新幹線キロ程 (km)

10.0

10.5

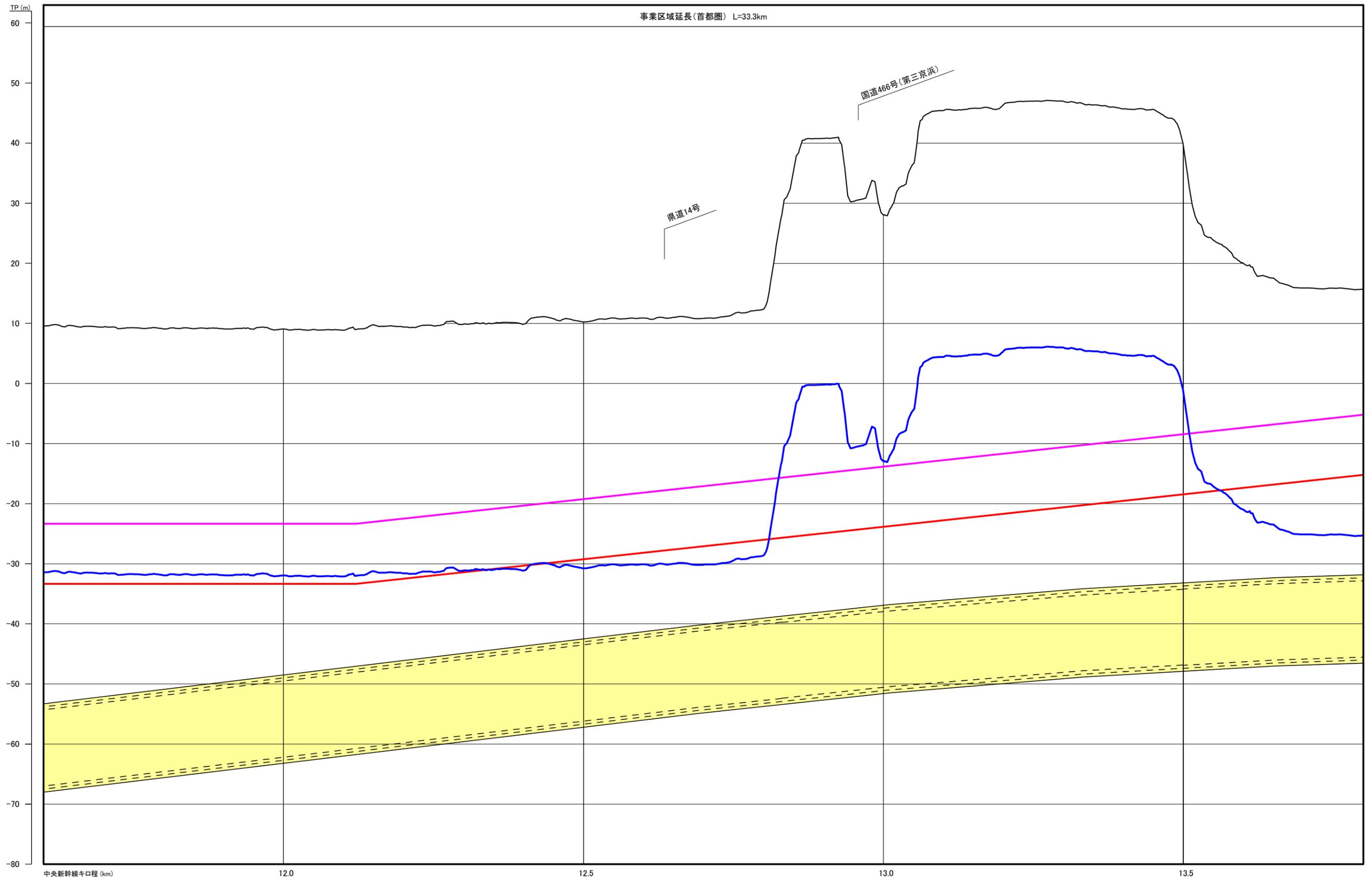
11.0

11.5

注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

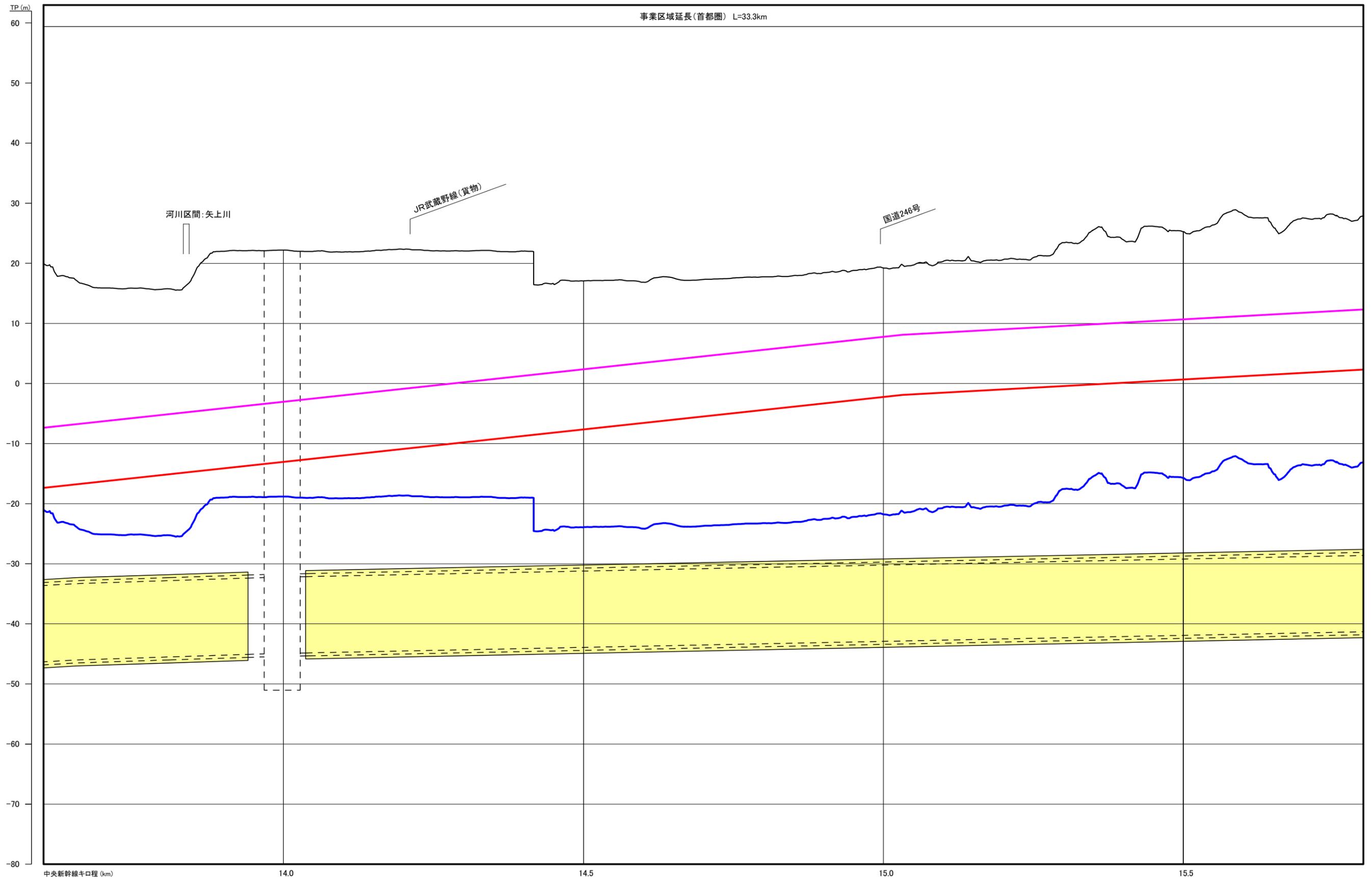
図5.4.6 大深度地下特定縦断図(首都圏 6/22) 縮尺 H = 1:6,000, V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

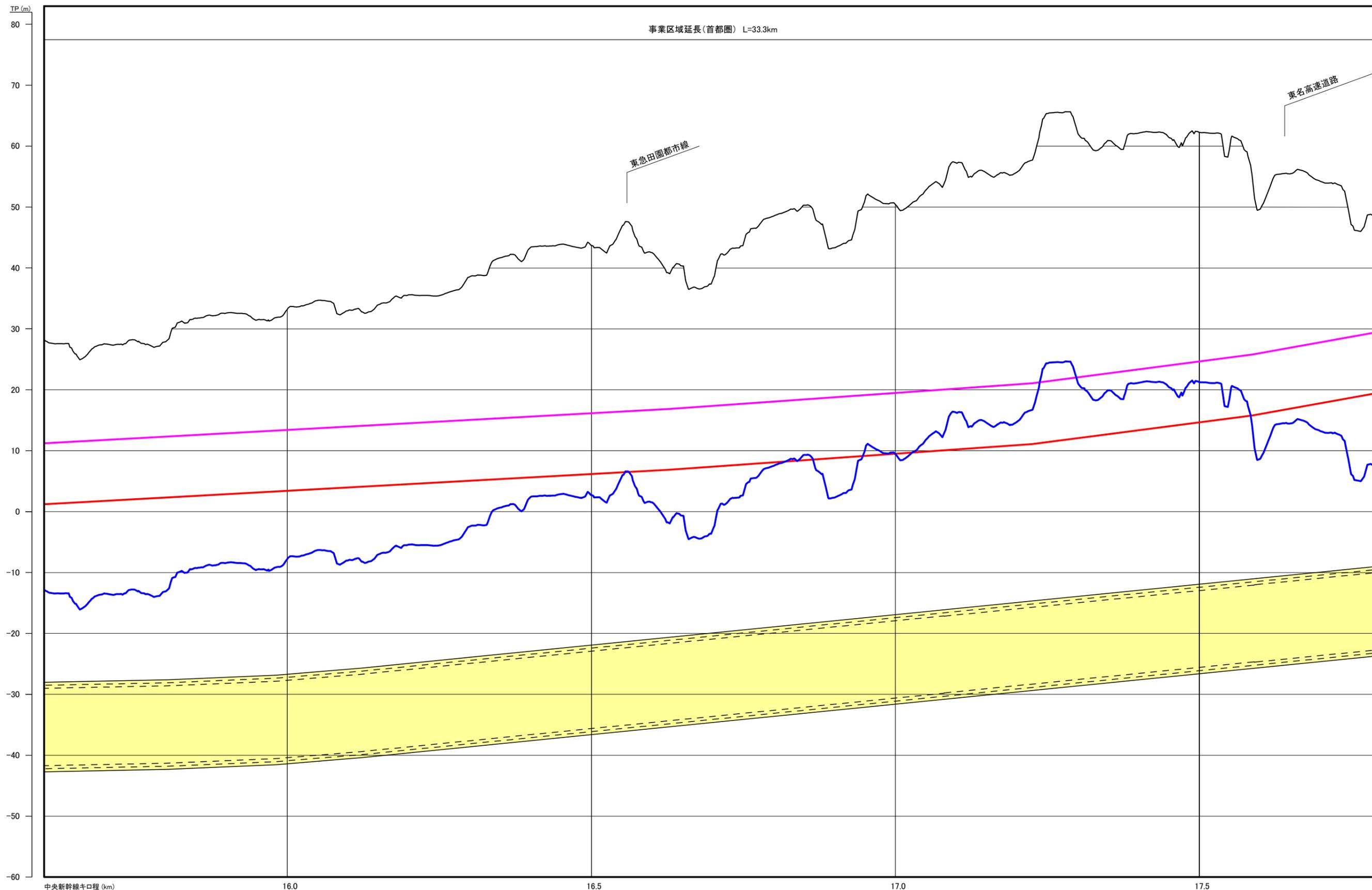
図5. 4. 7 大深度地下特定縦断図(首都圏 7 / 22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

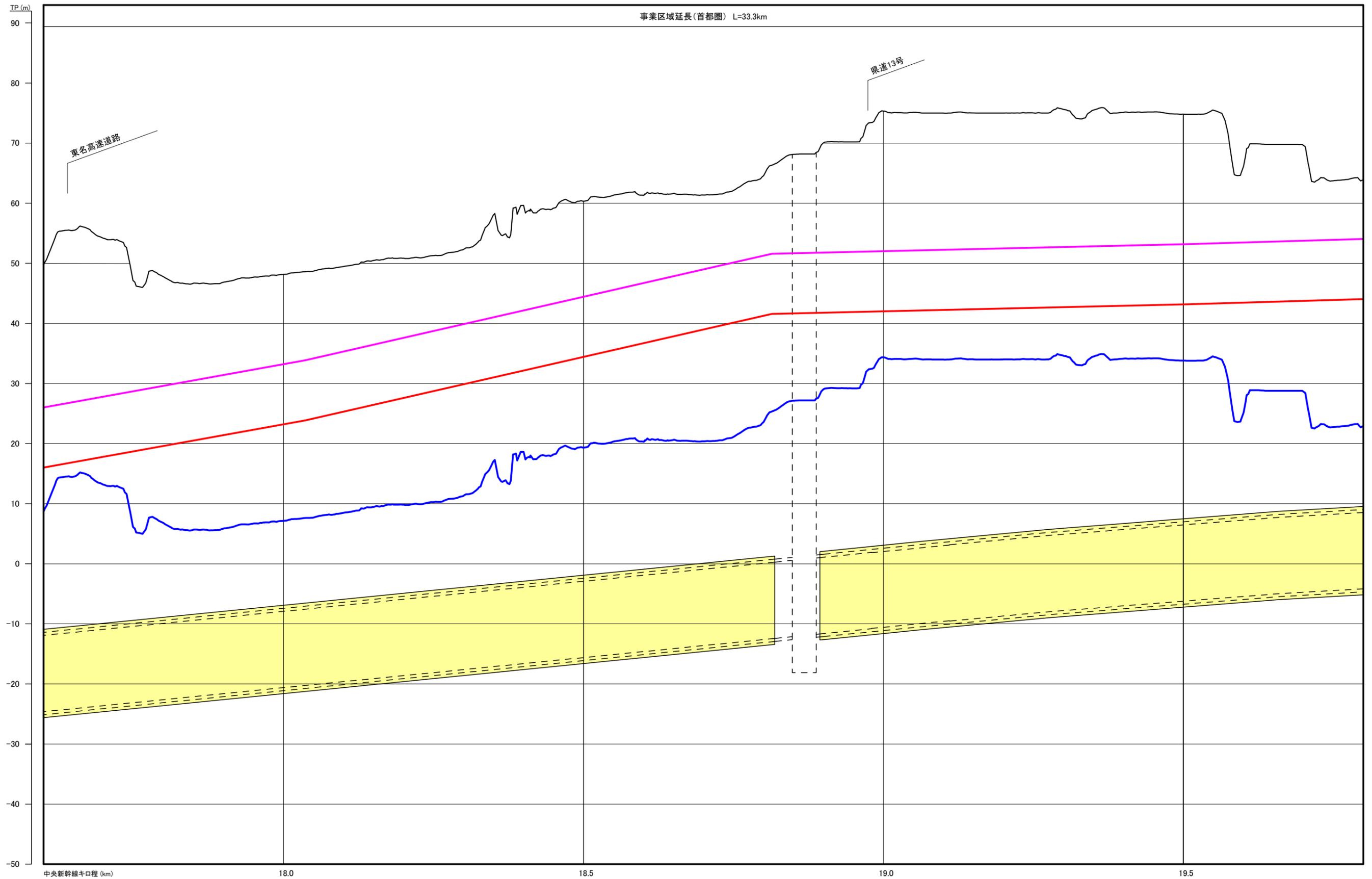
図5.4.8 大深度地下特定縦断図(首都圏 8/22) 縮尺 H = 1:6,000, V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

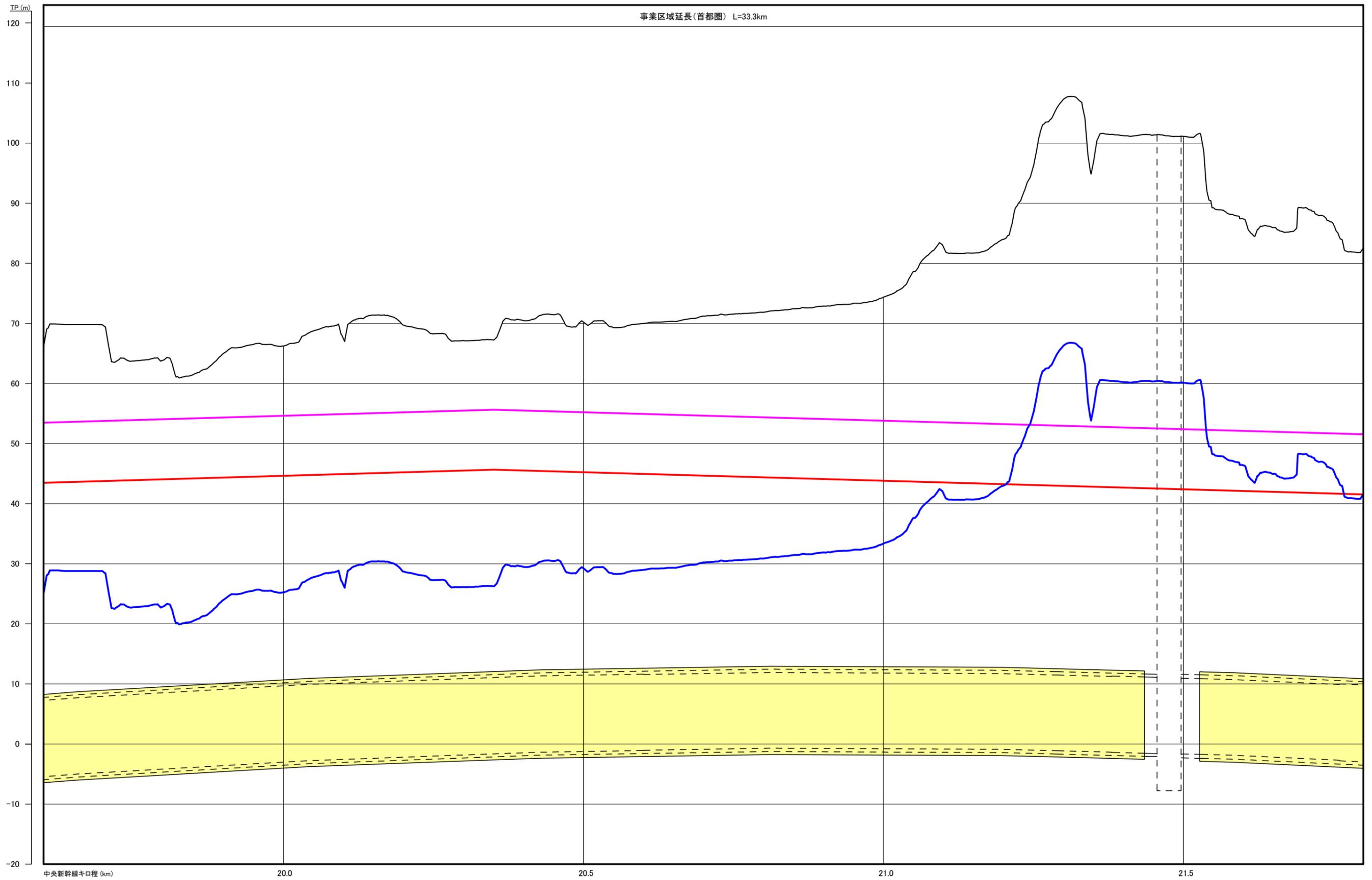
図5.4.9 大深度地下特定縦断図(首都圏 9/22) 縮尺 H = 1:6,000, V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

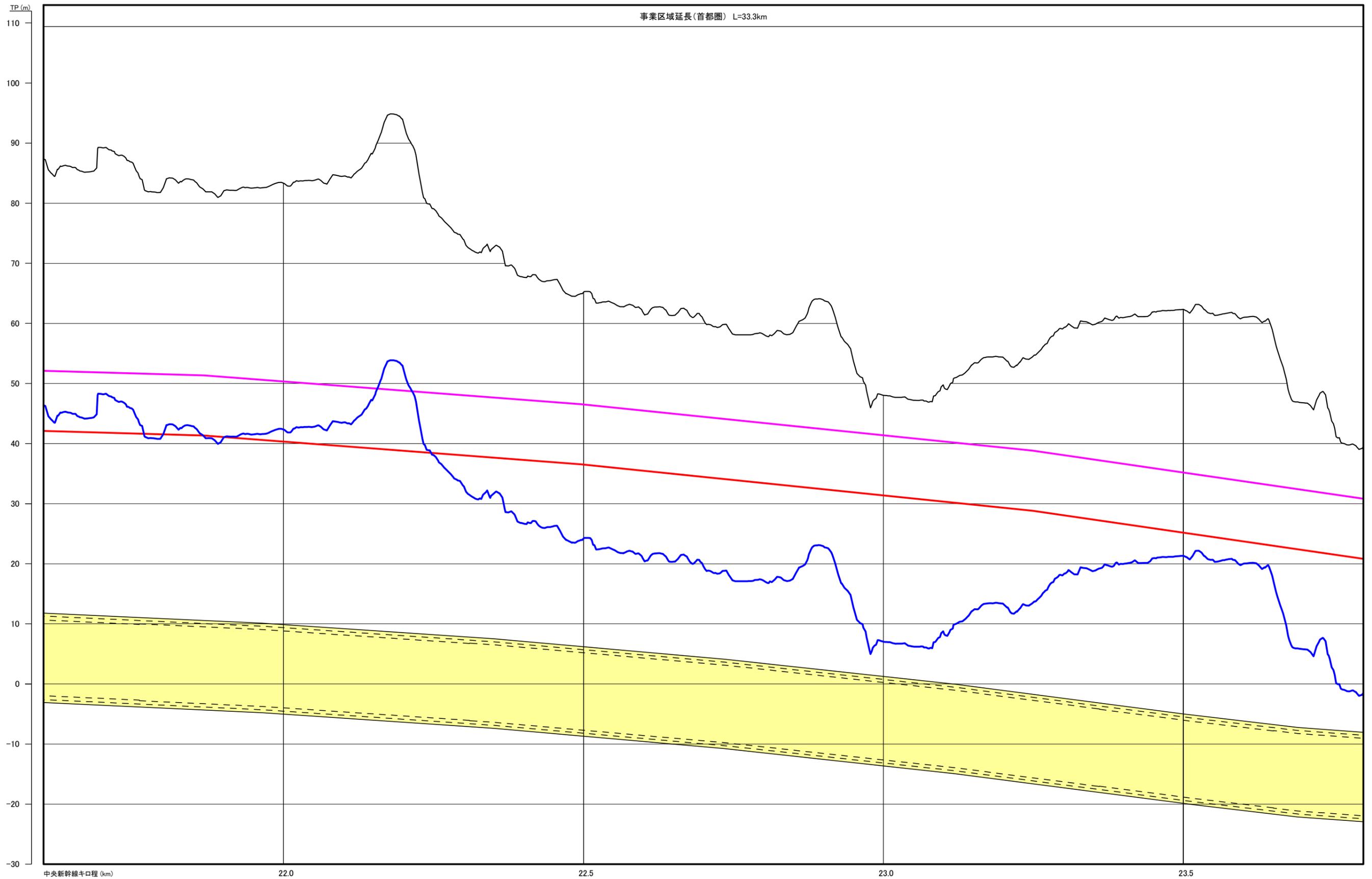
図5. 4. 10 大深度地下特定縦断図(首都圏10/22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

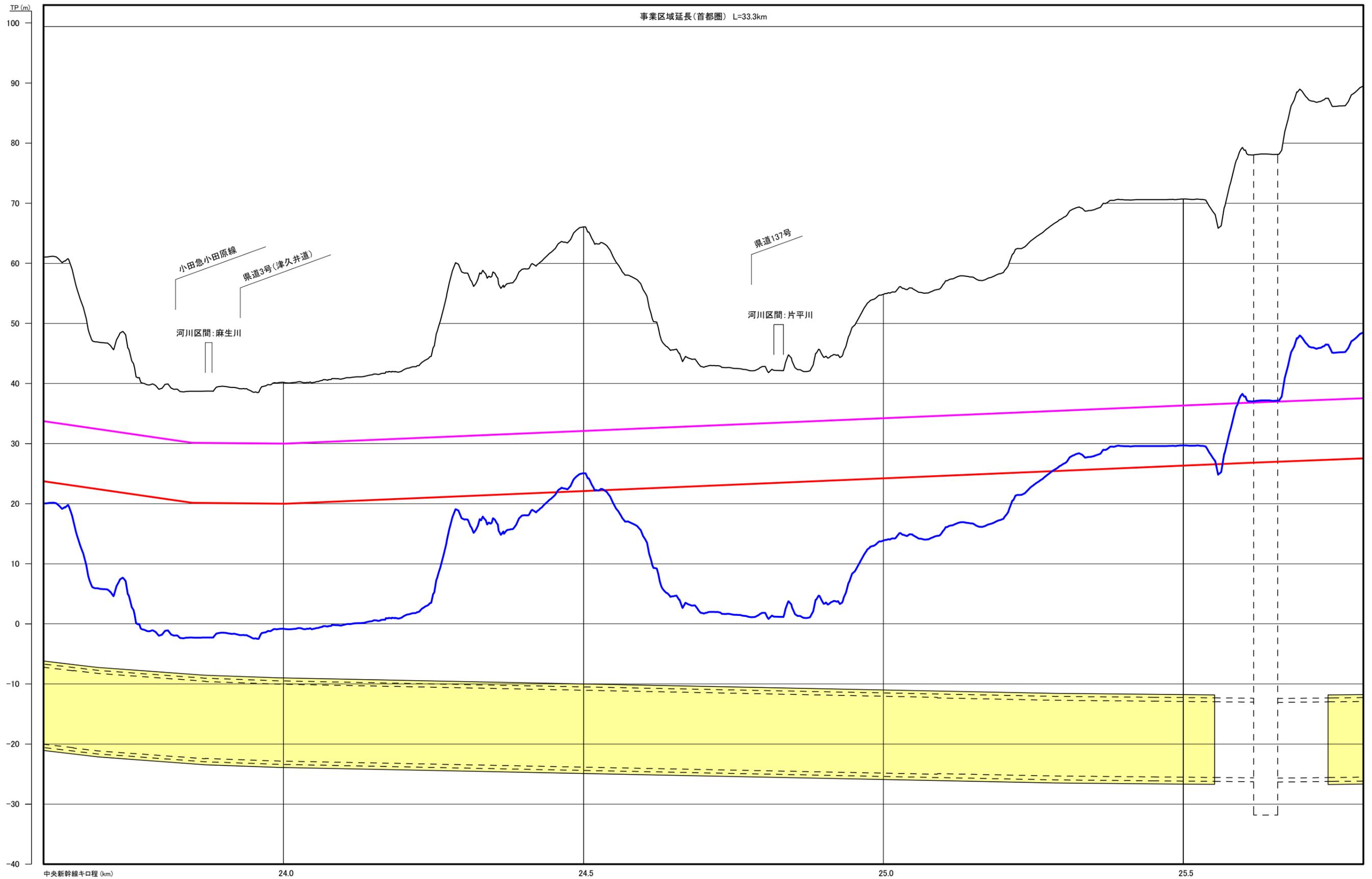
図5. 4. 11 大深度地下特定縦断図(首都圏 11/22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

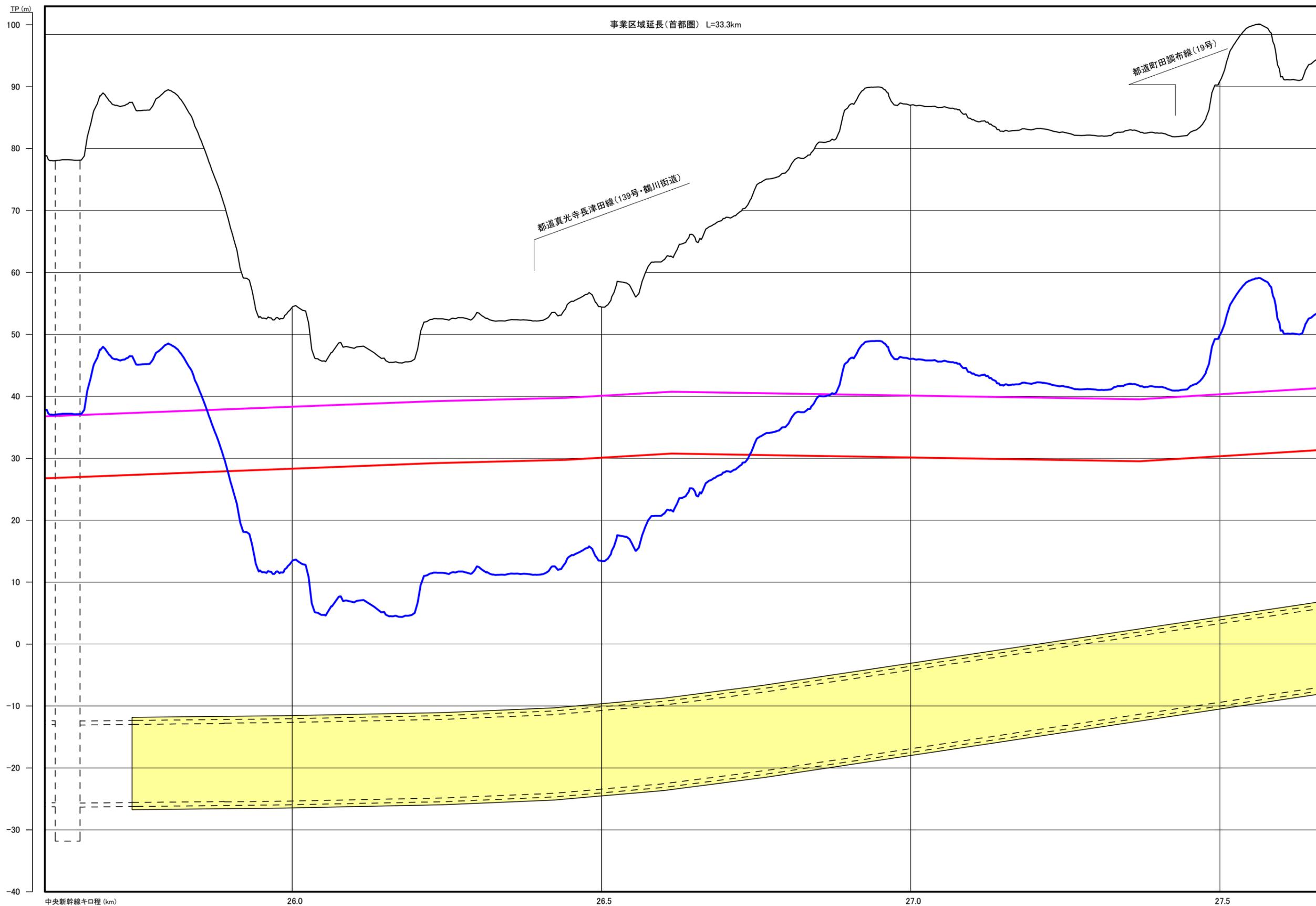
図5. 4. 12 大深度地下特定縦断図(首都圏 12/22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

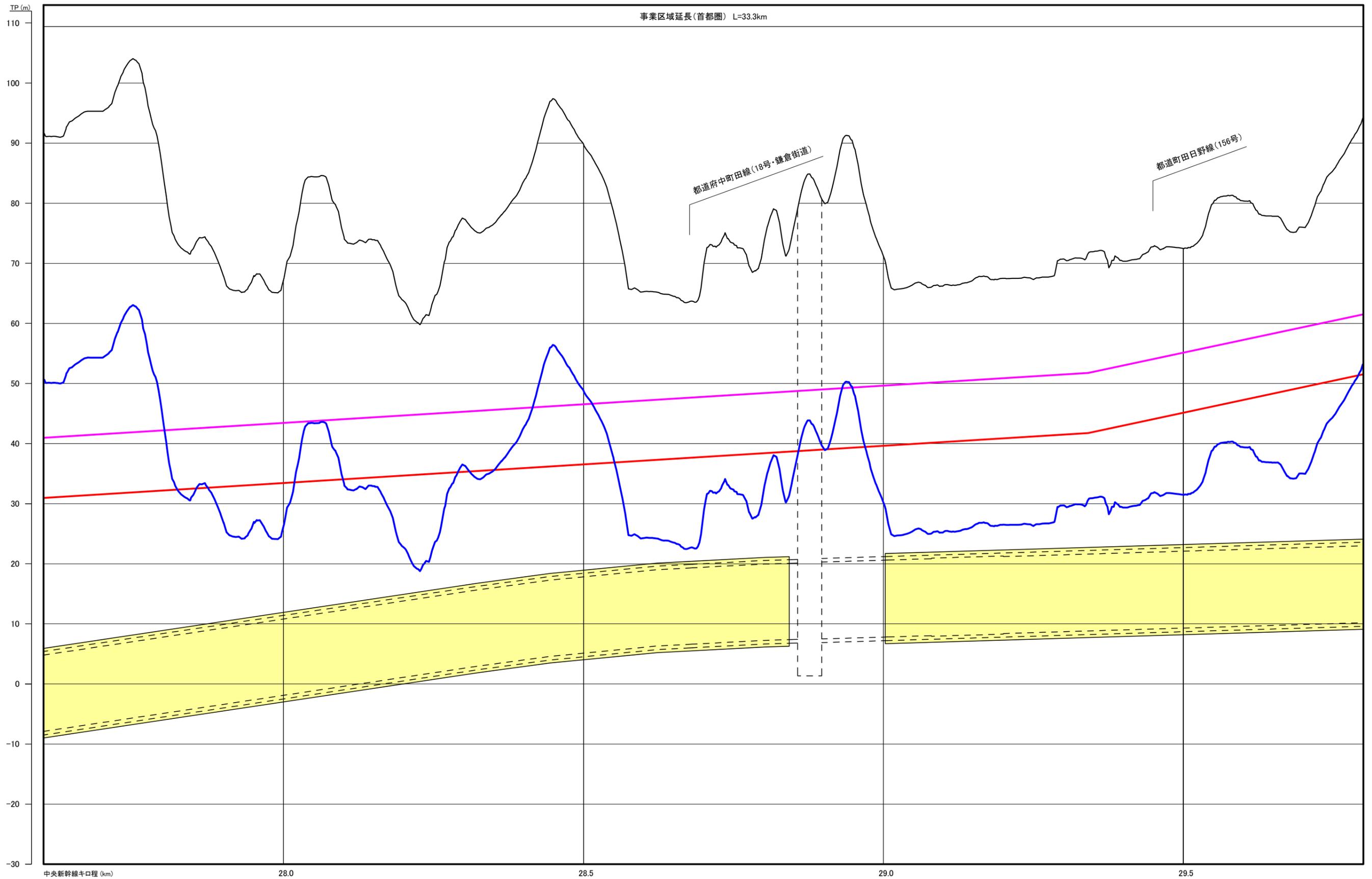
図5. 4. 13 大深度地下特定縦断図(首都圏 13/22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

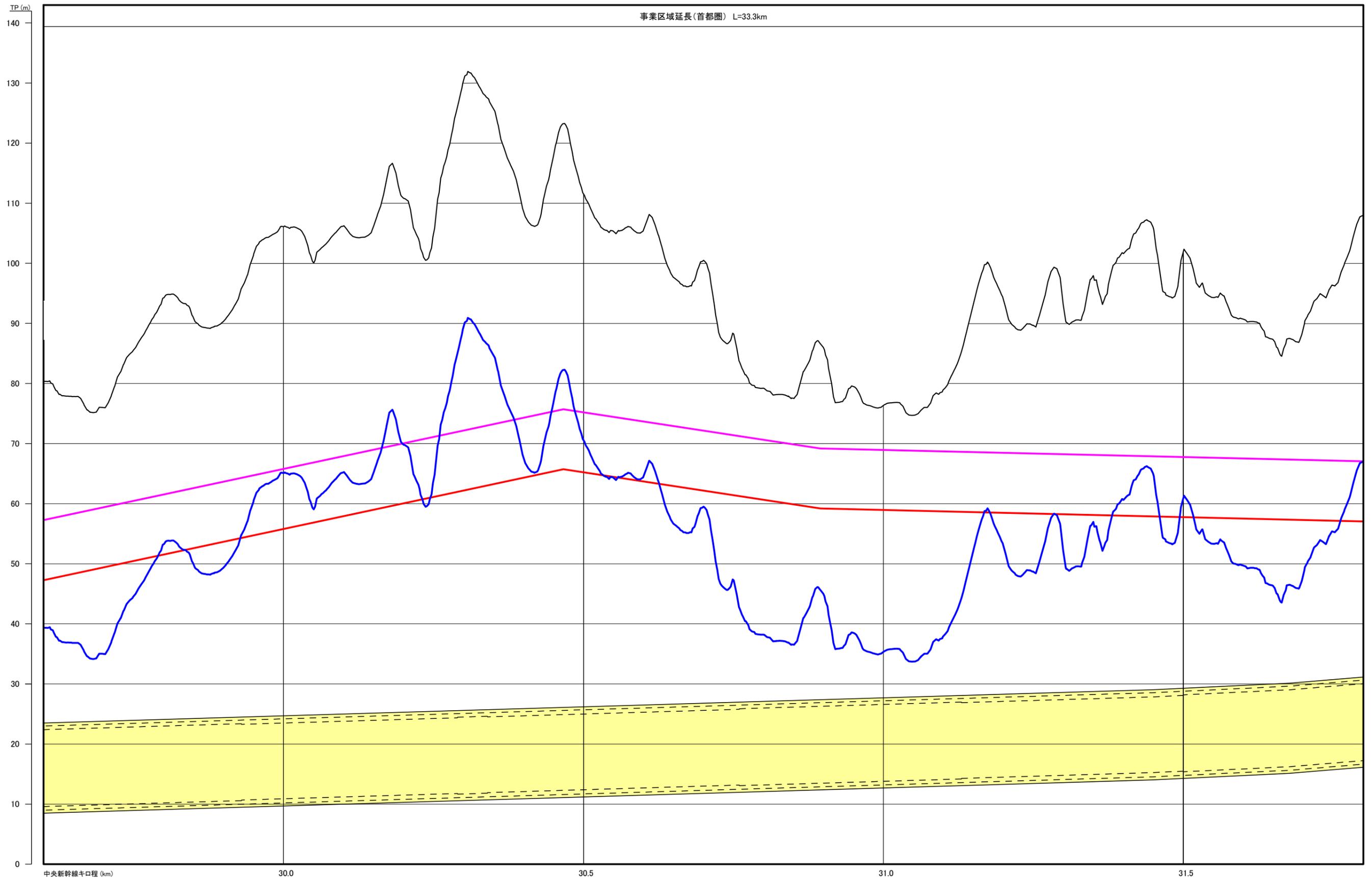
図5. 4. 14 大深度地下特定縦断図(首都圏 14/22) 縮尺 H = 1:6,000, V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

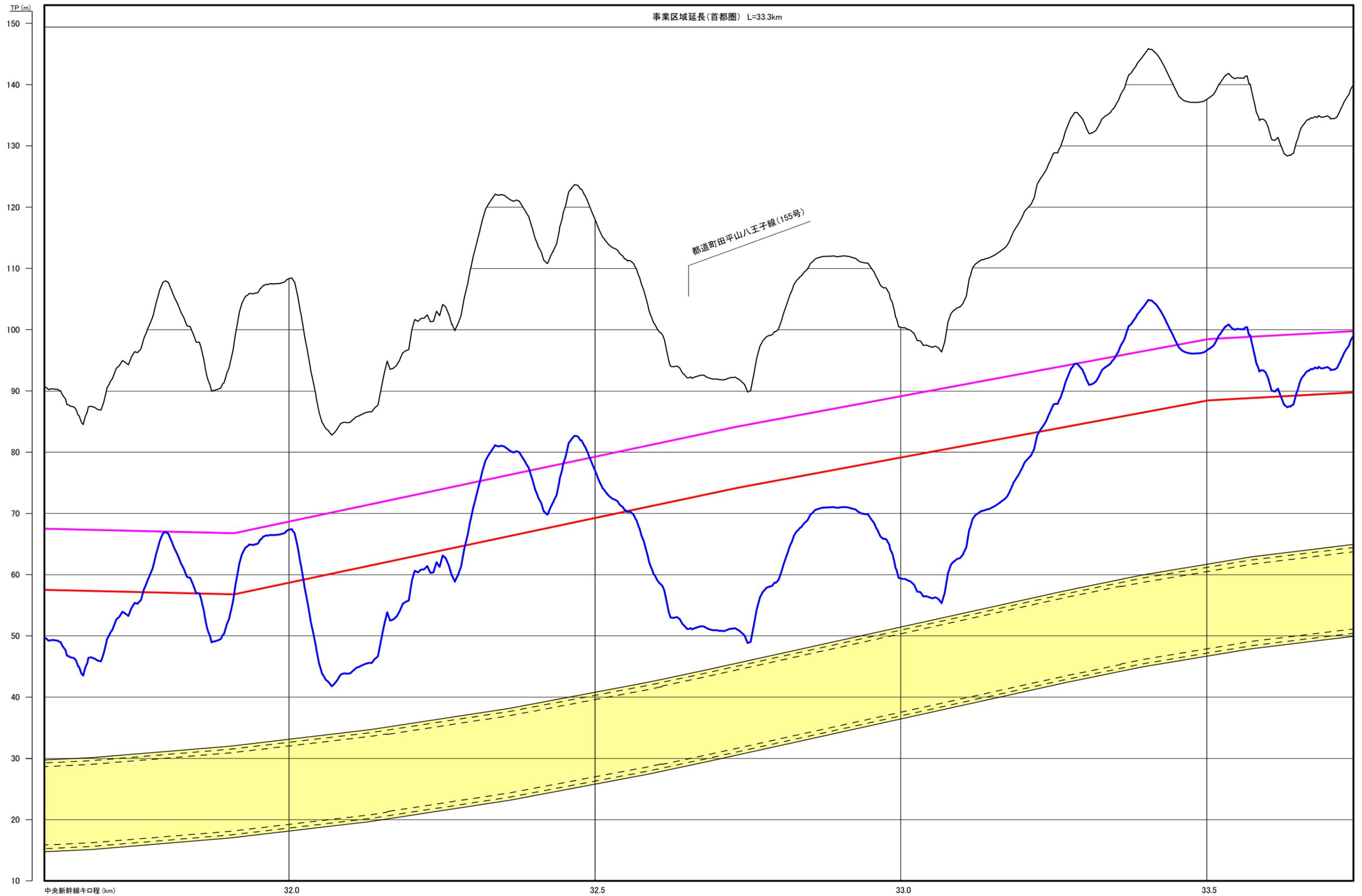
図5. 4. 15 大深度地下特定縦断図(首都圏 15/22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

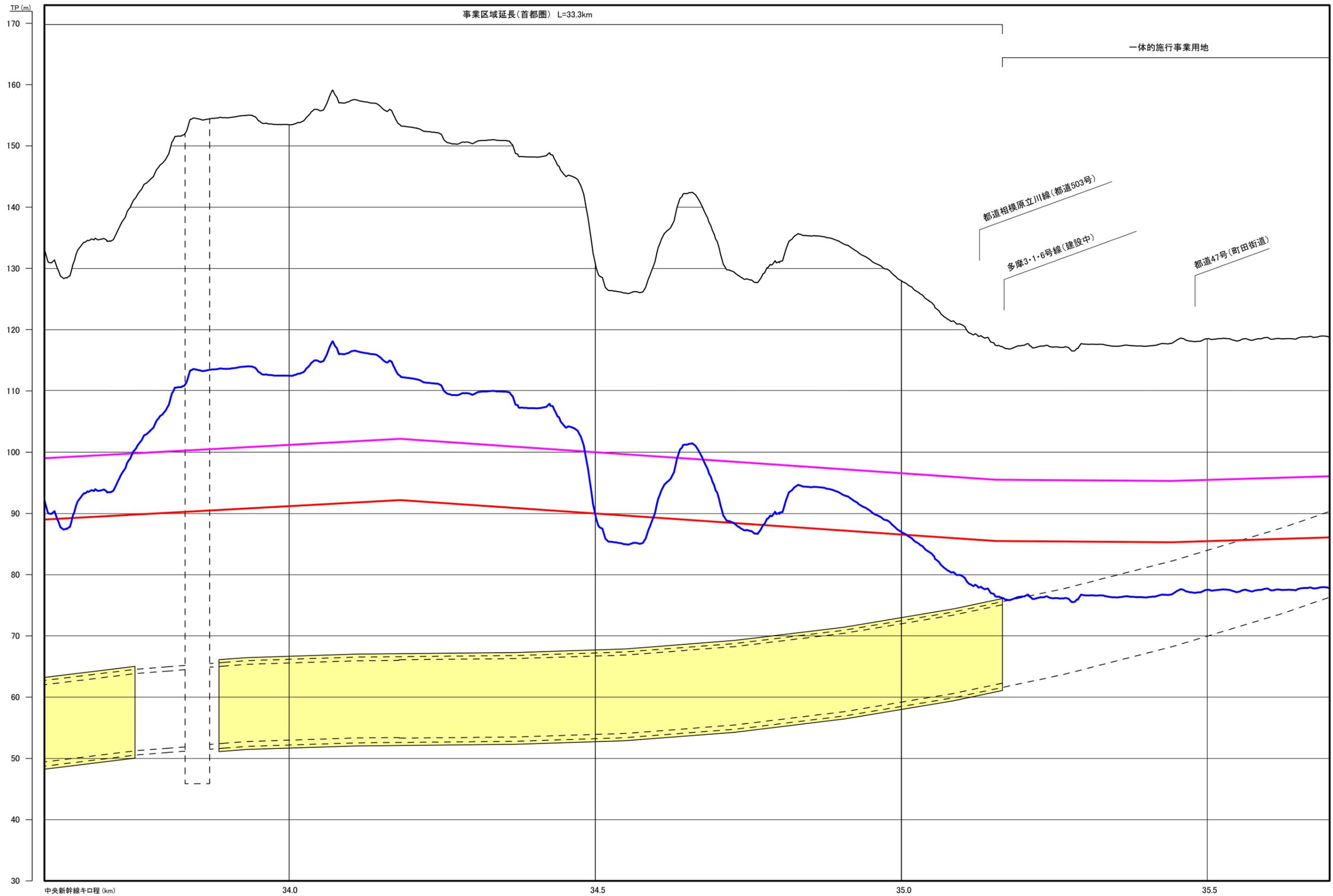
図5. 4. 16 大深度地下特定縦断図(首都圏 16/22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

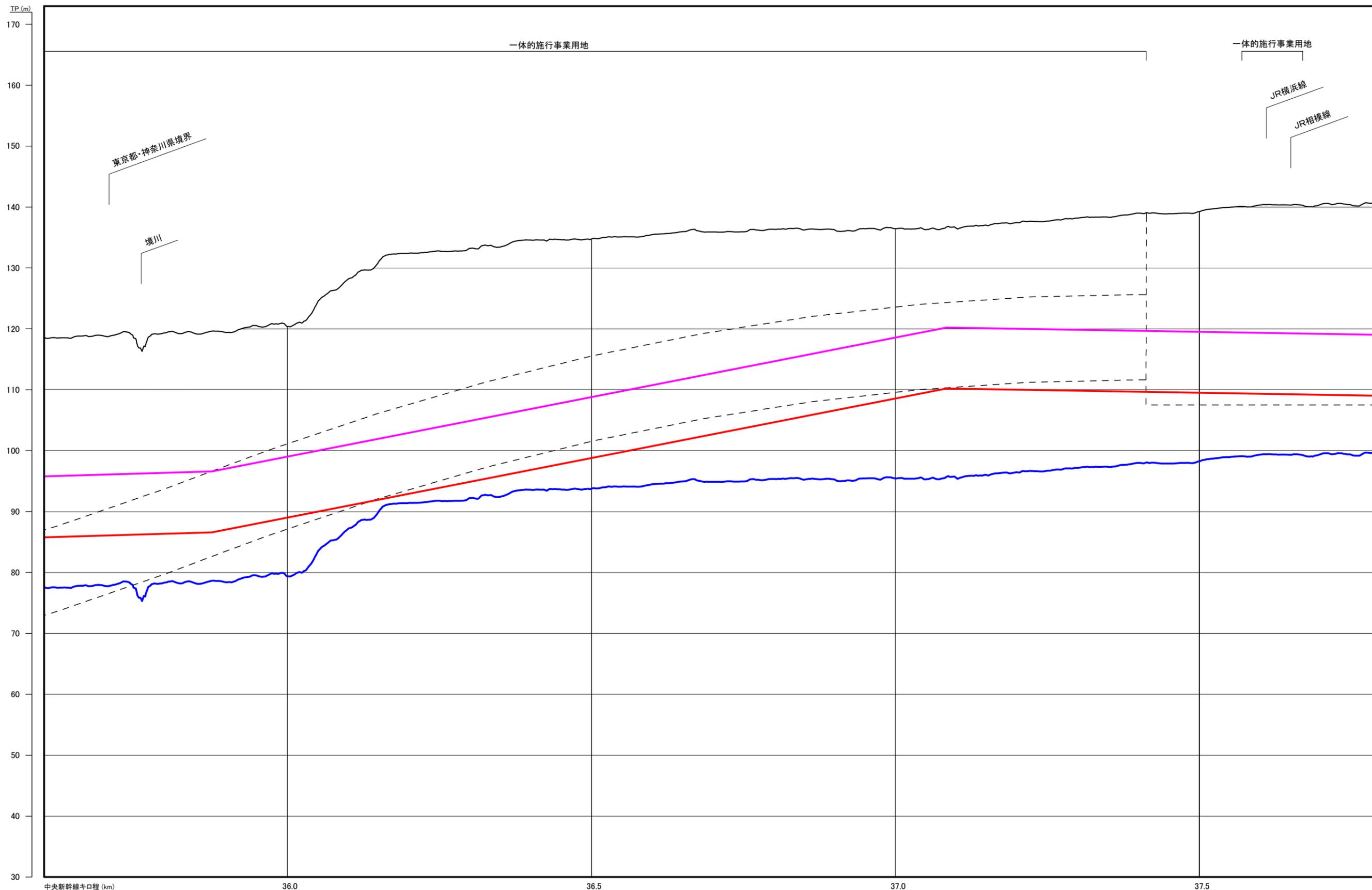
図5. 4.17 大深度地下特定縦断図(首都圏17/22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

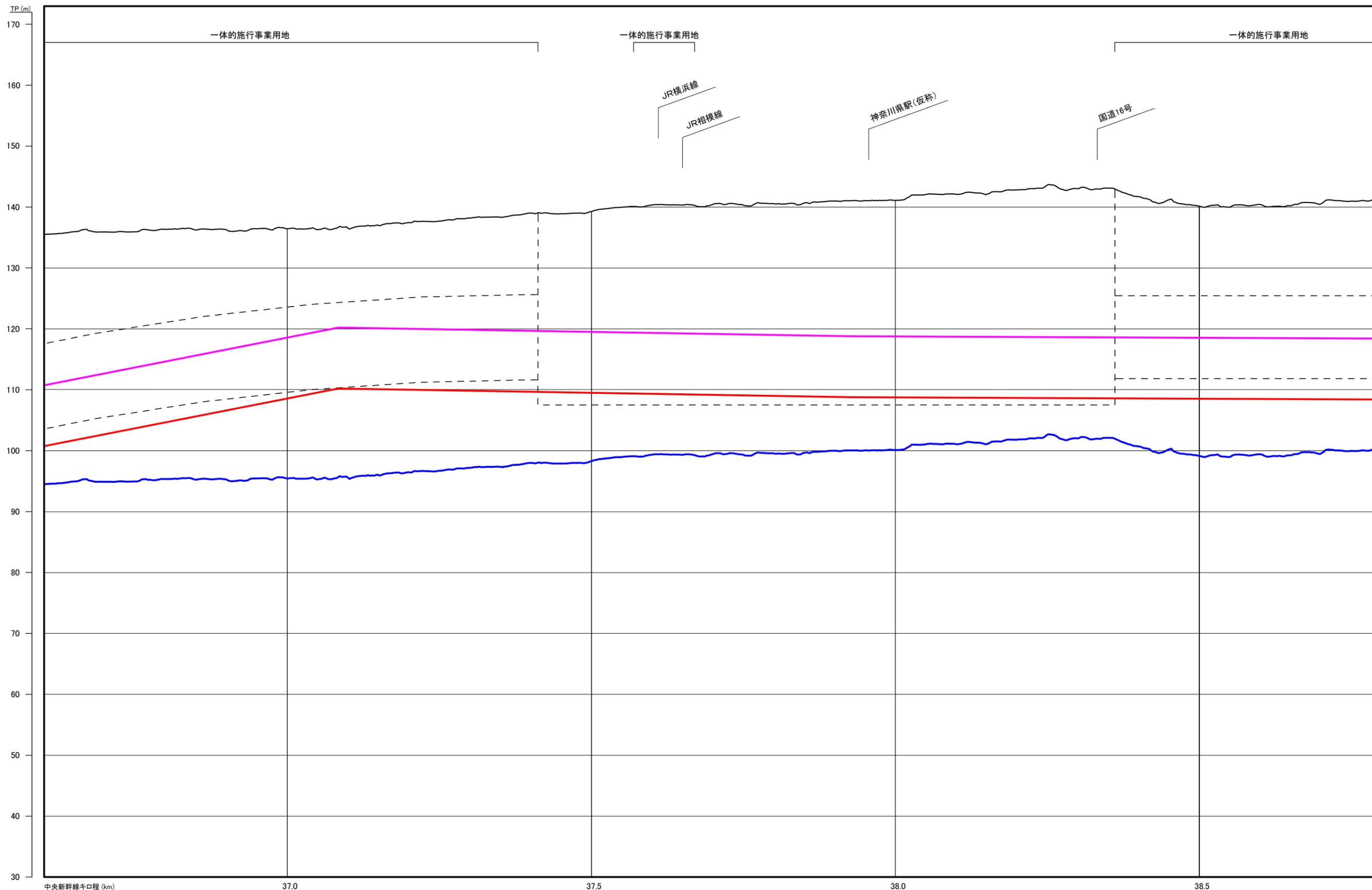
図5. 4. 18 大深度地下特定縦断図(首都圏 18/22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 — GL -41m — 支持地盤 — 支持地盤-10m

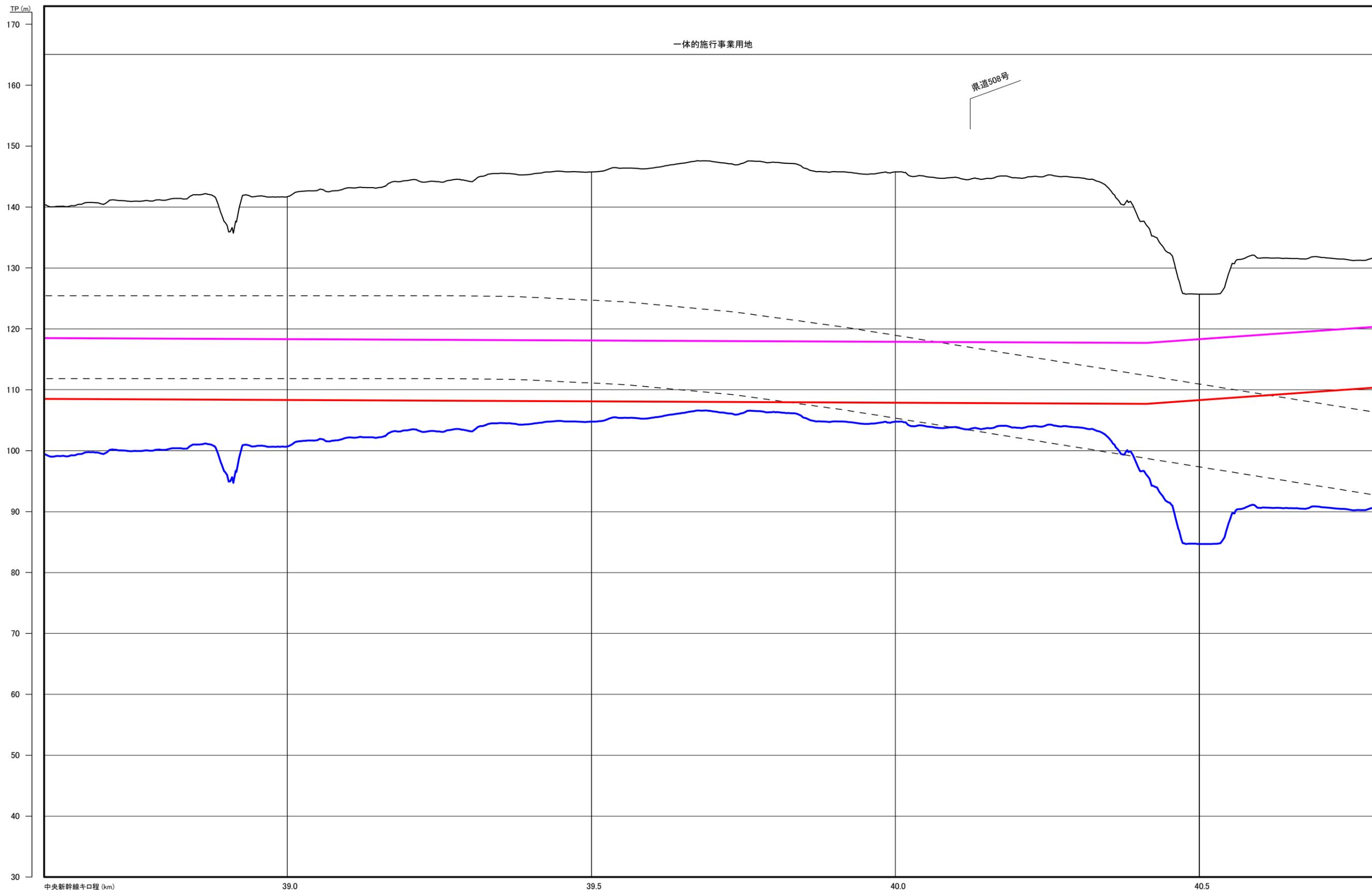
図5. 4. 19 大深度地下特定縦断図(首都圏19/22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 — GL -41m — 支持地盤 — 支持地盤-10m

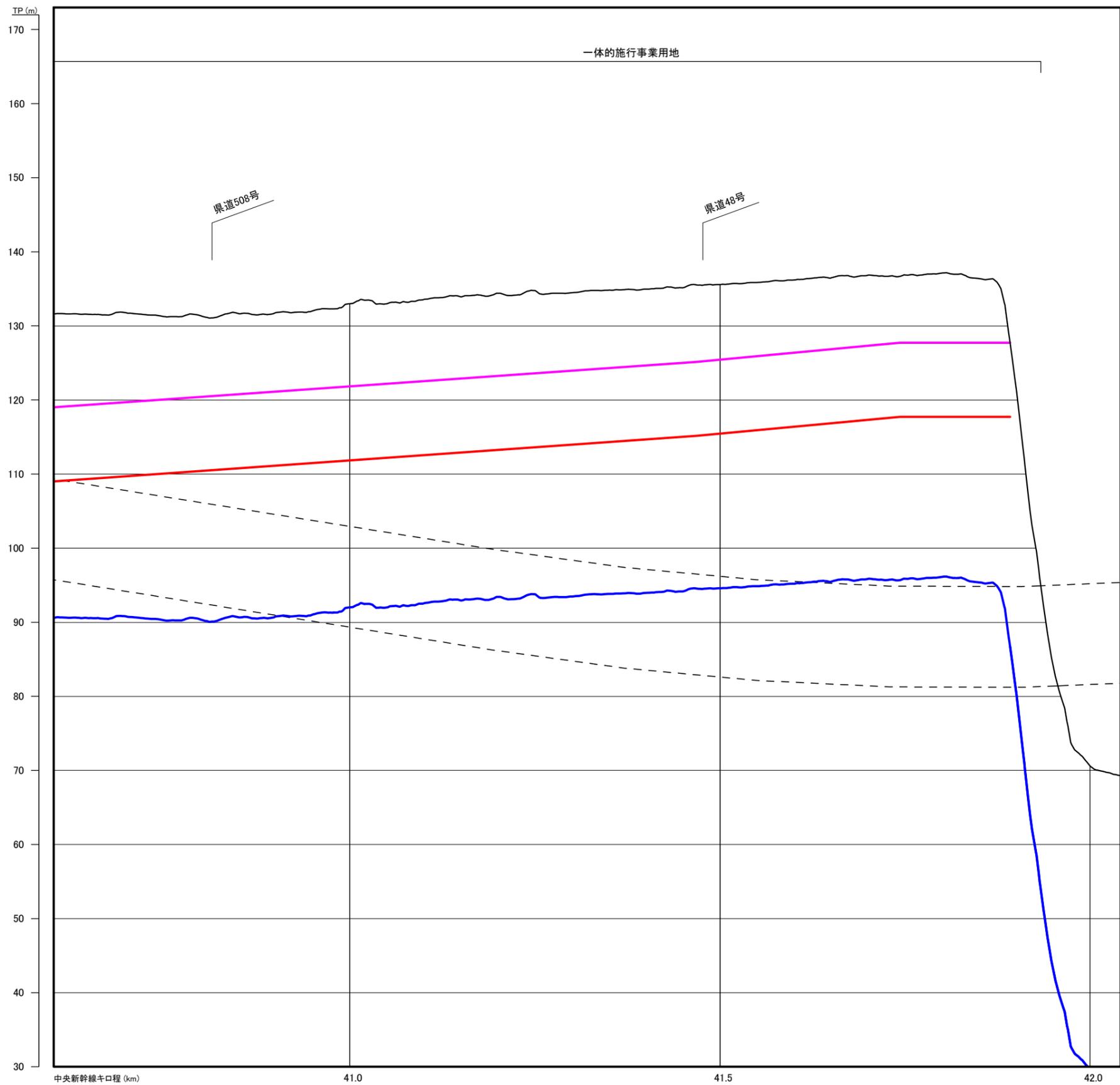
図5. 4. 20 大深度地下特定縦断図(首都圏 20/22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

図5. 4. 21 大深度地下特定縦断図(首都圏 21 / 22) 縮尺 H = 1 : 6,000 , V = 1 : 600



注1: 駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2: 河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3: この図面は、国土地理院の基盤地図情報(承認番号 平情25使、第867号)を基に作成した図面を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

図5. 4. 22 大深度地下特定縦断図(首都圏 22/22) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600

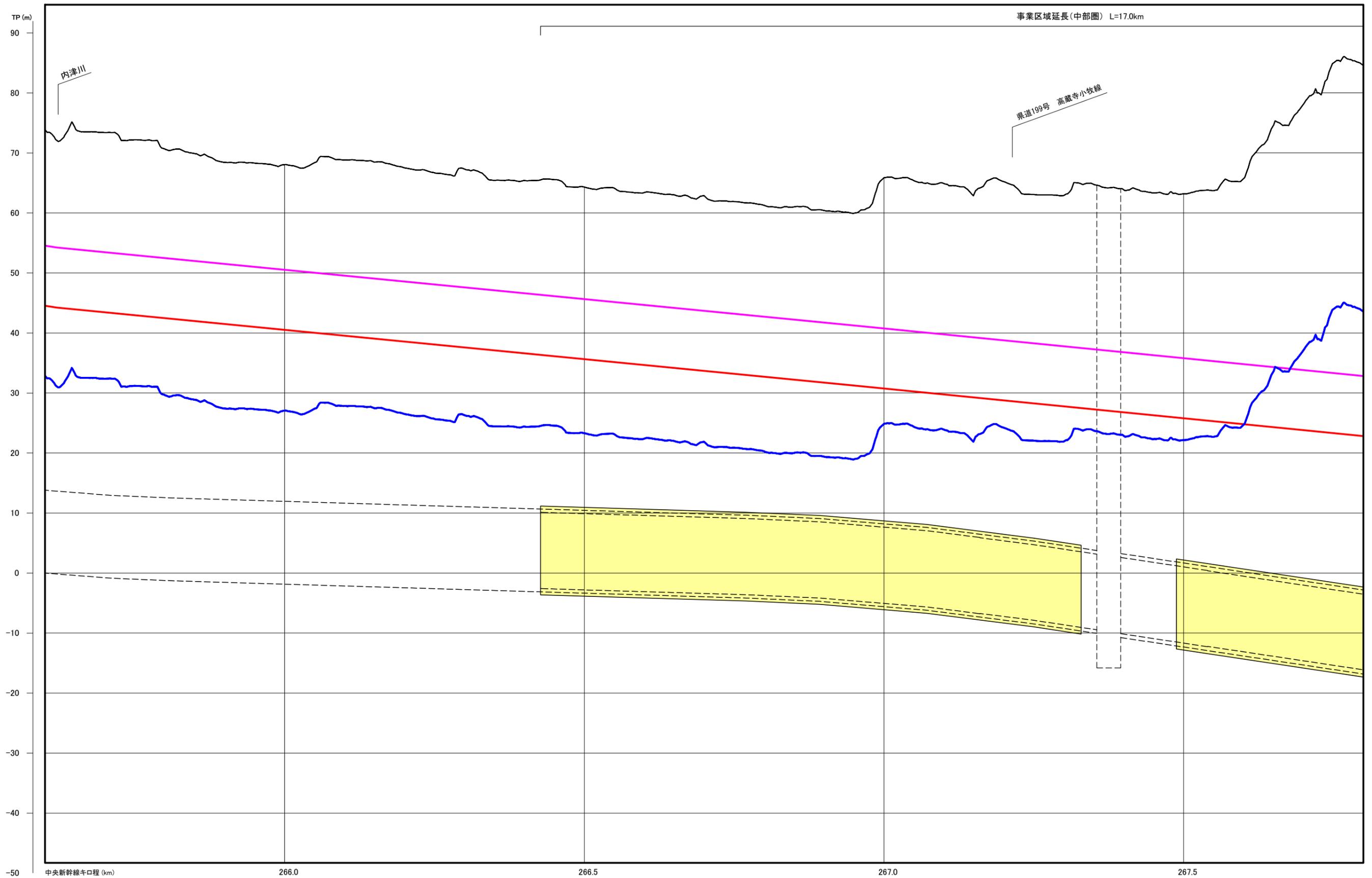
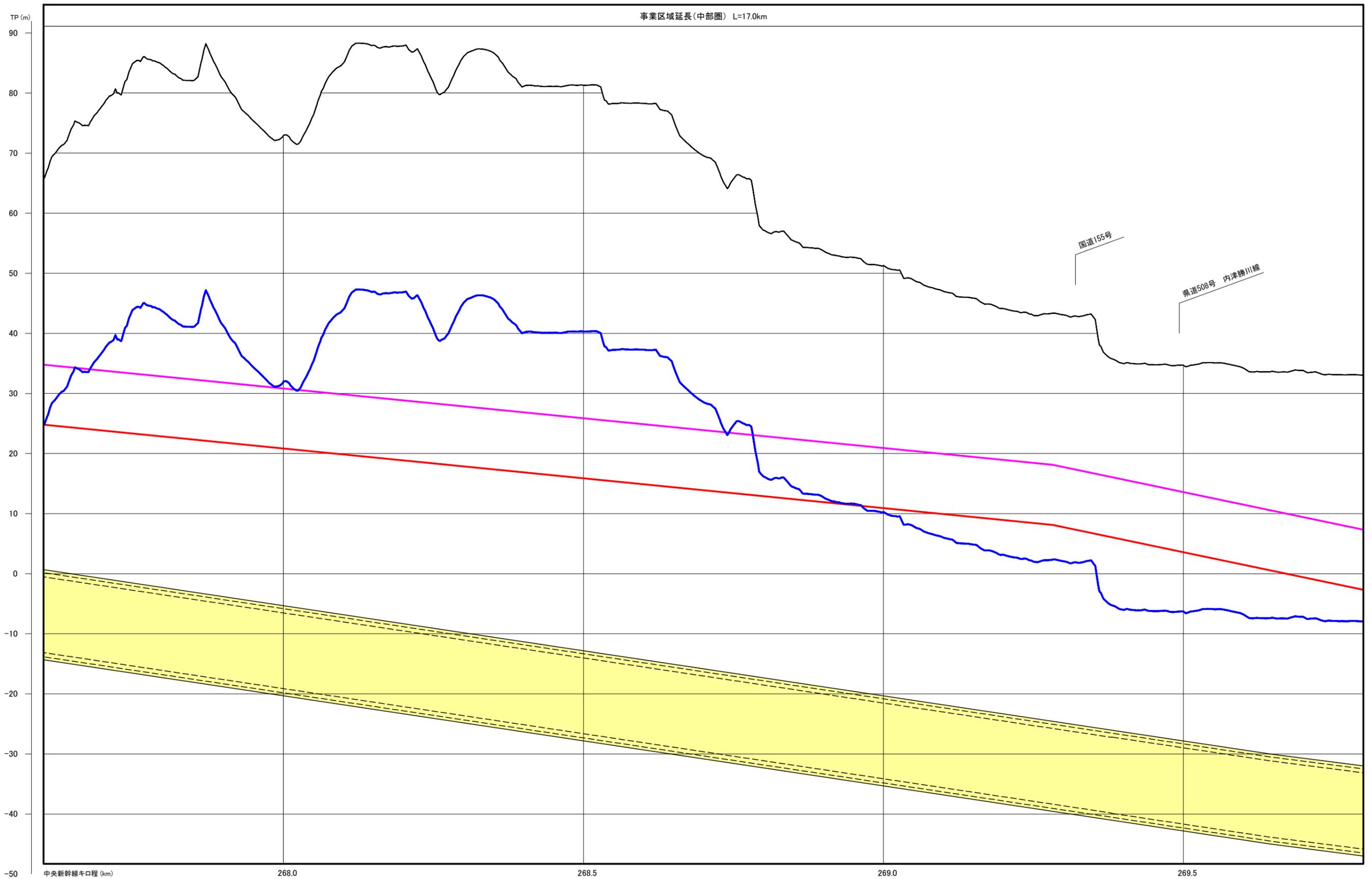


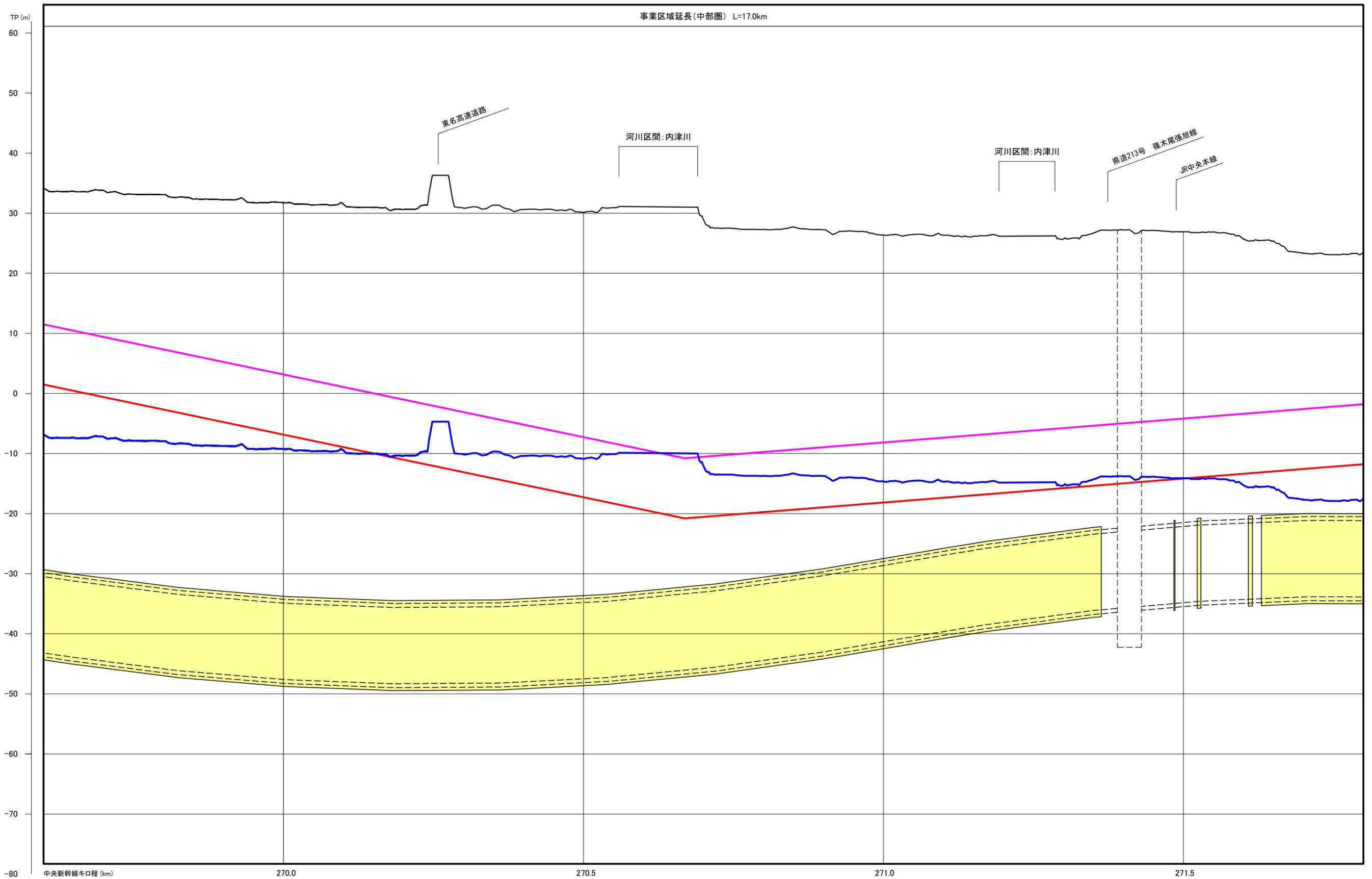
図5. 4.23 大深度地下特定縦断面図(中部圏 1 / 12) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1：駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2：河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3：この図面は、国土地理院の基盤地図情報を基に作成した図面（平成25情使、第867号）を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

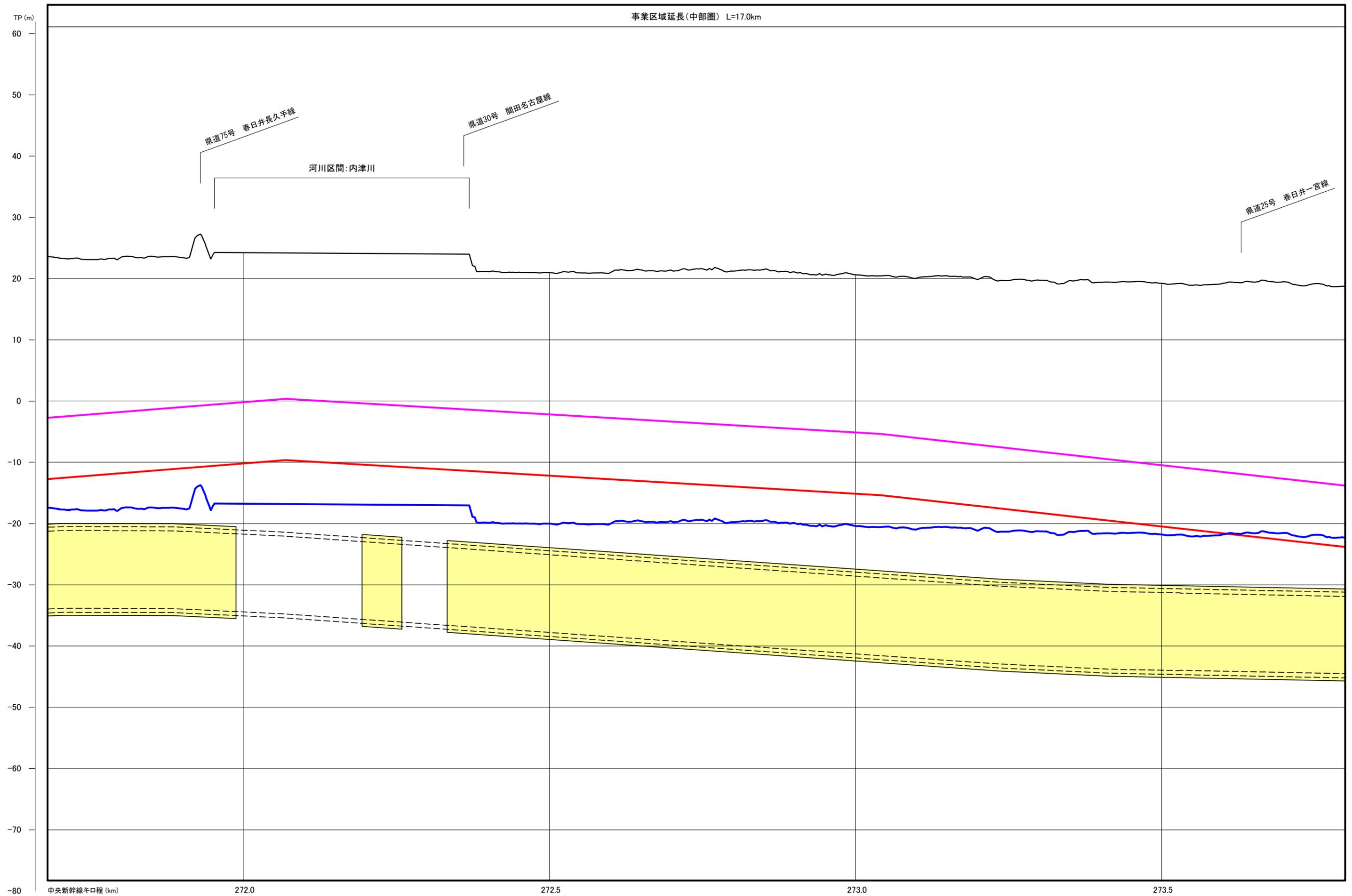
図5. 4. 24 大深度地下特定縦断図(中部圏 2 / 12) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1：駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2：河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3：この図面は、国土地理院の基盤地図情報を基に作成した図面（平成25情使、第867号）を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

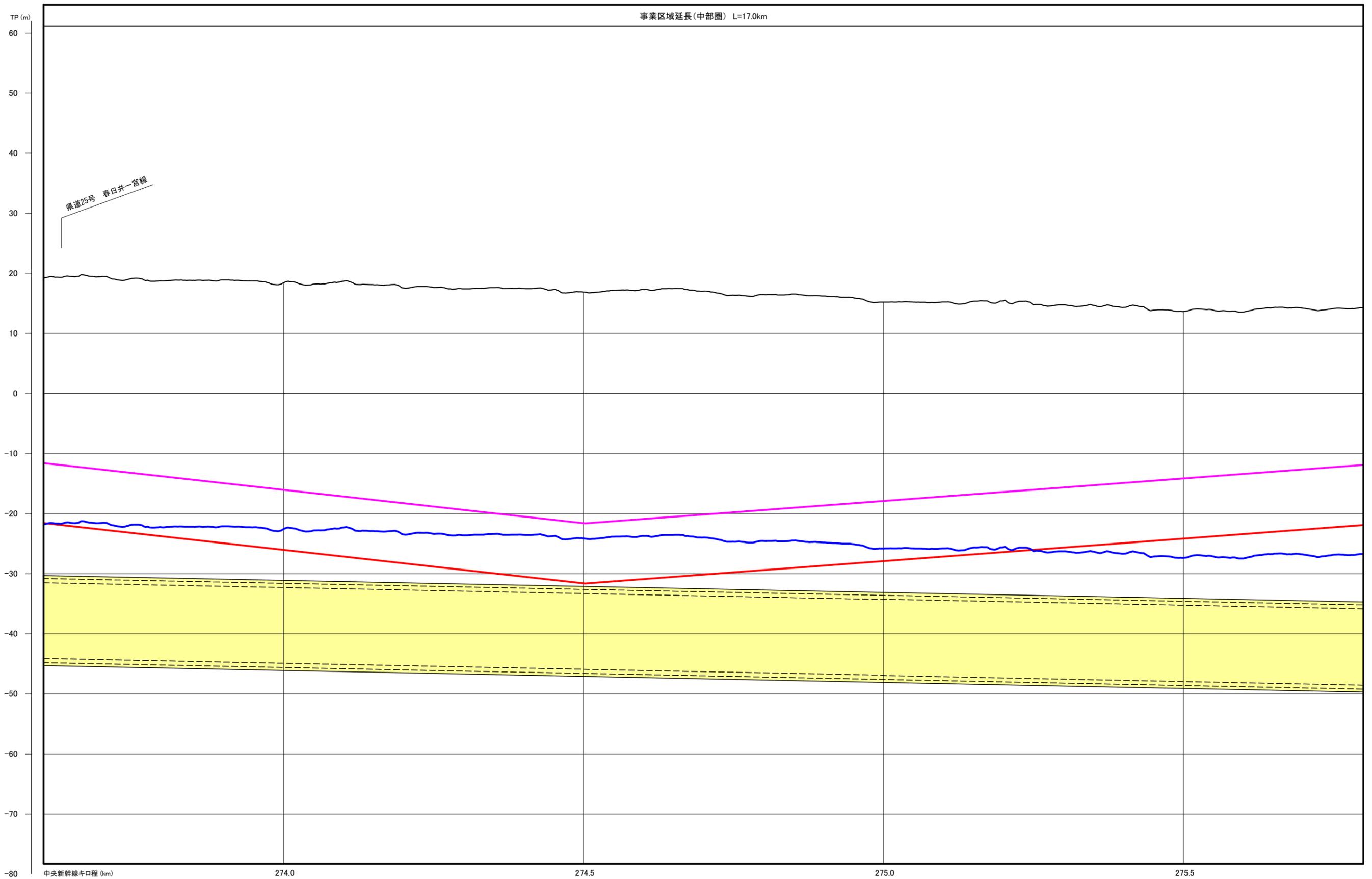
図5. 4.25 大深度地下特定縦断図(中部圏 3 / 12) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1：駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2：河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3：この図面は、国土地理院の基盤地図情報を基に作成した図面（平成25情使、第867号）を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

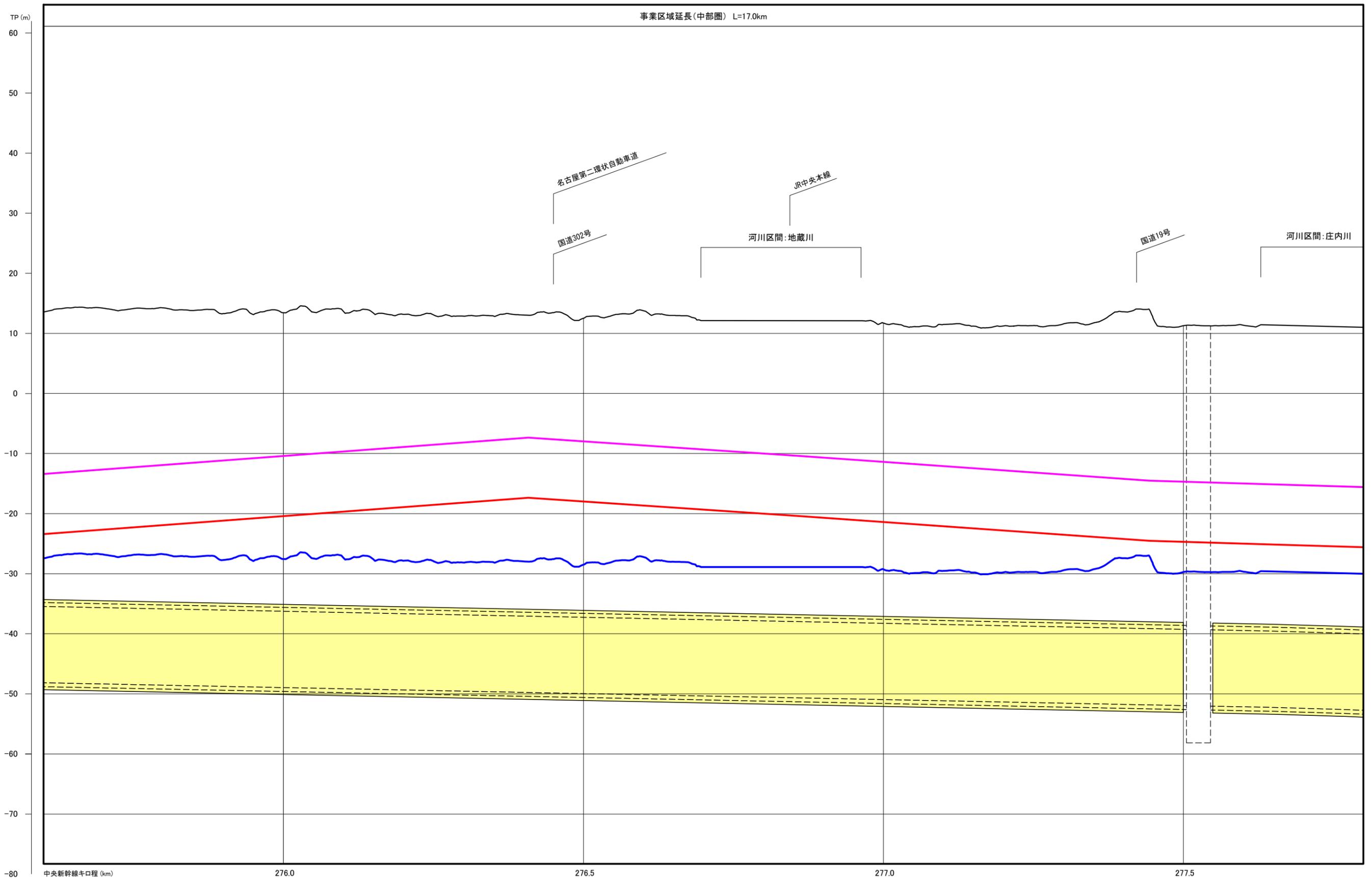
図5. 4.26 大深度地下特定縦断図(中部圏 4 / 12) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1：駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2：河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3：この図面は、国土地理院の基盤地図情報を基に作成した図面（平成25情使、第867号）を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

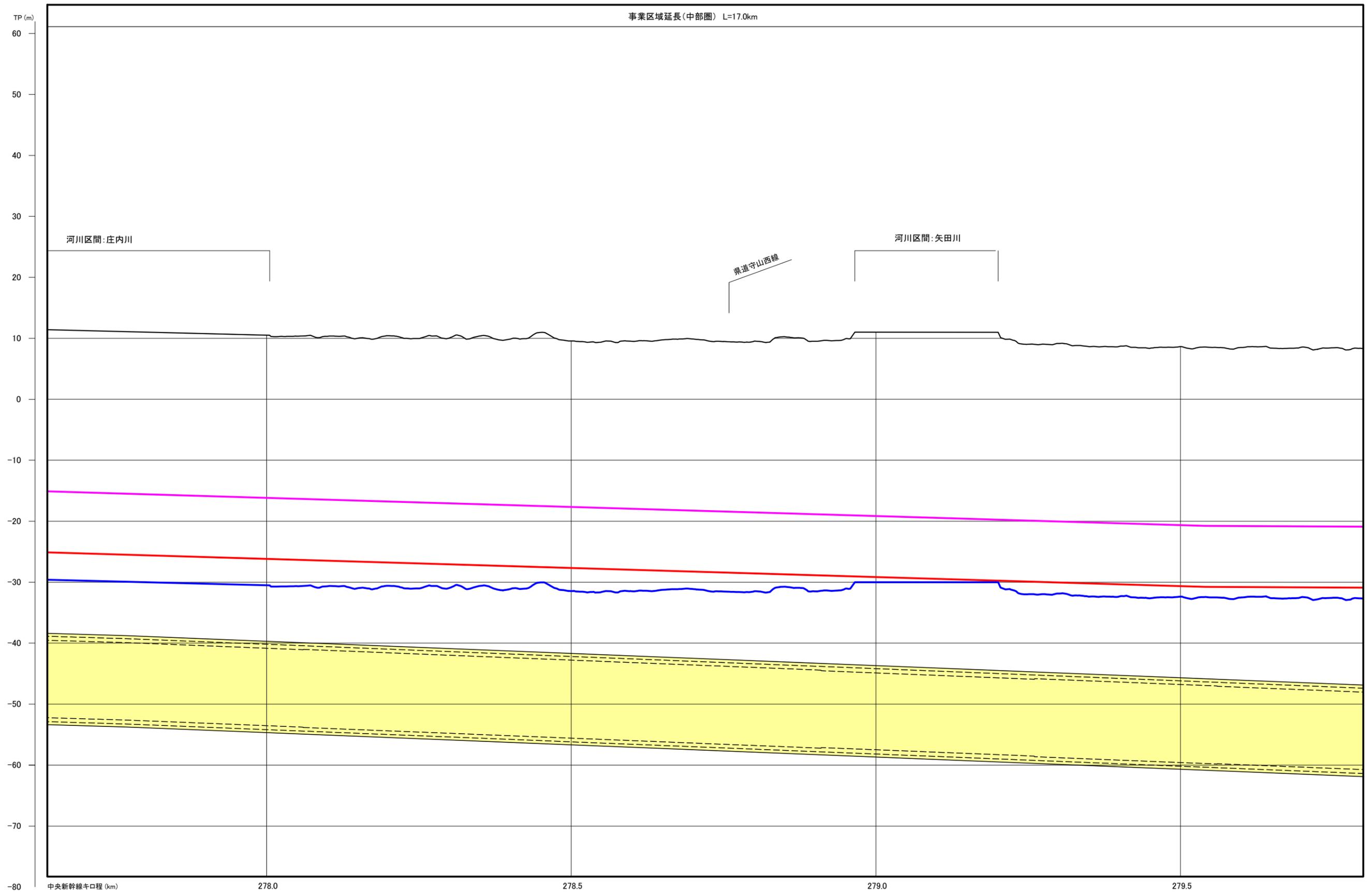
図5. 4.27 大深度地下特定縦断図(中部圏 5 / 12) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1：駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2：河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3：この図面は、国土地理院の基盤地図情報を基に作成した図面（平成25情使、第867号）を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

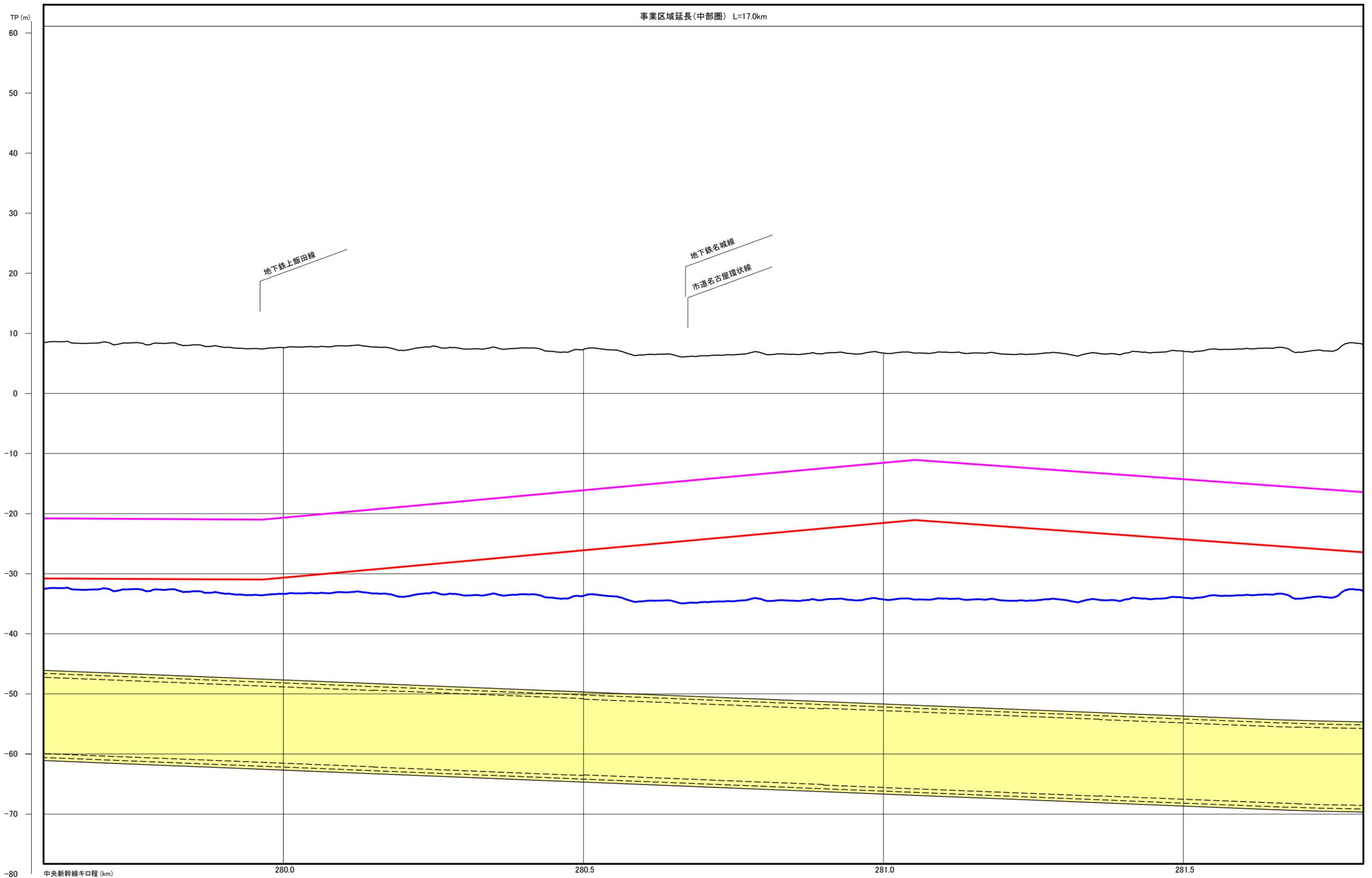
図5. 4.28 大深度地下特定縦断図(中部圏 6 / 12) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1：駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2：河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3：この図面は、国土地理院の基盤地図情報を基に作成した図面（平成25情使、第867号）を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

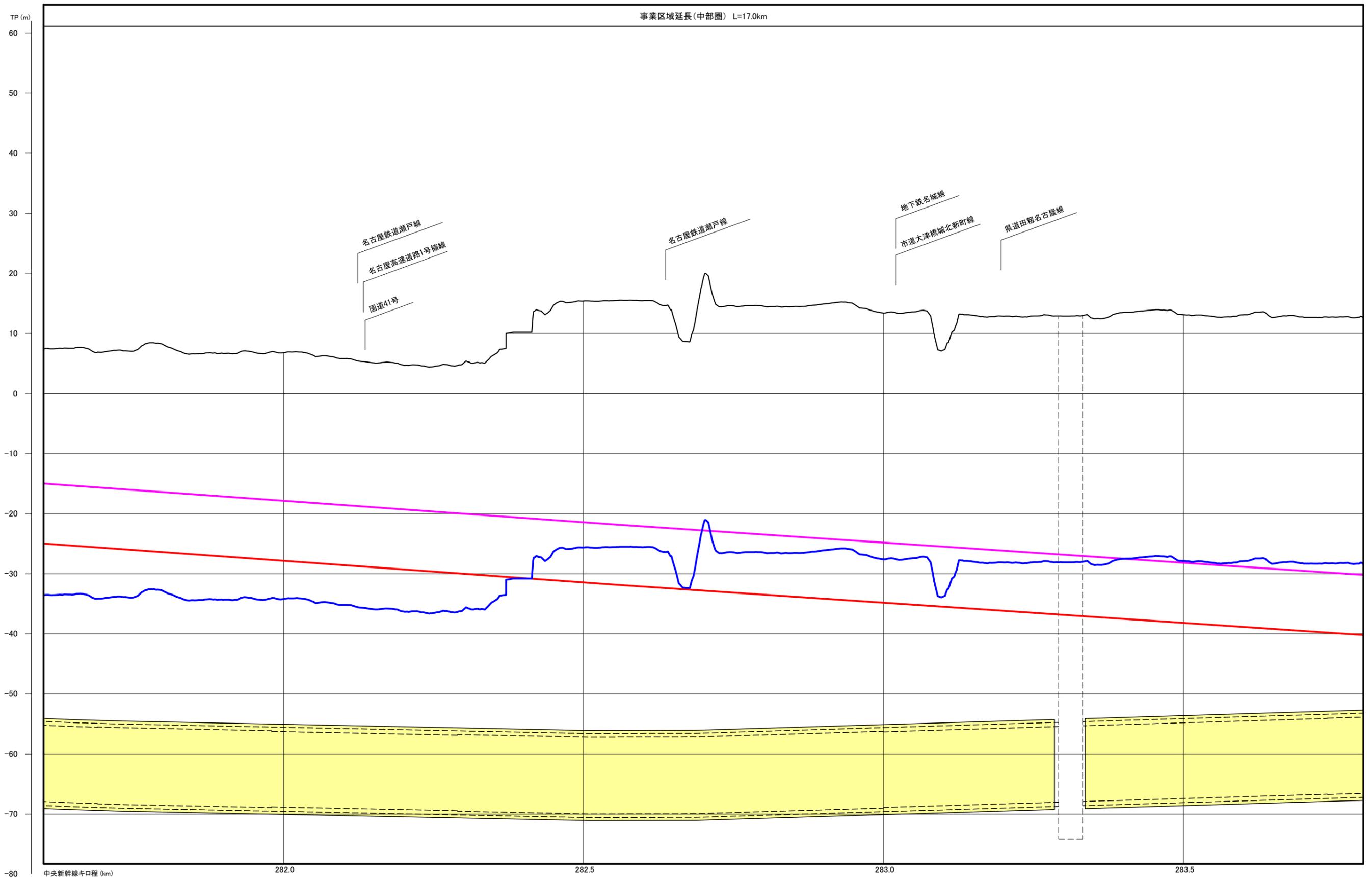
図5. 4.29 大深度地下特定縦断図(中部圏 7 / 12) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1：駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2：河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3：この図面は、国土地理院の基盤地図情報を基に作成した図面（平成25情使、第867号）を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

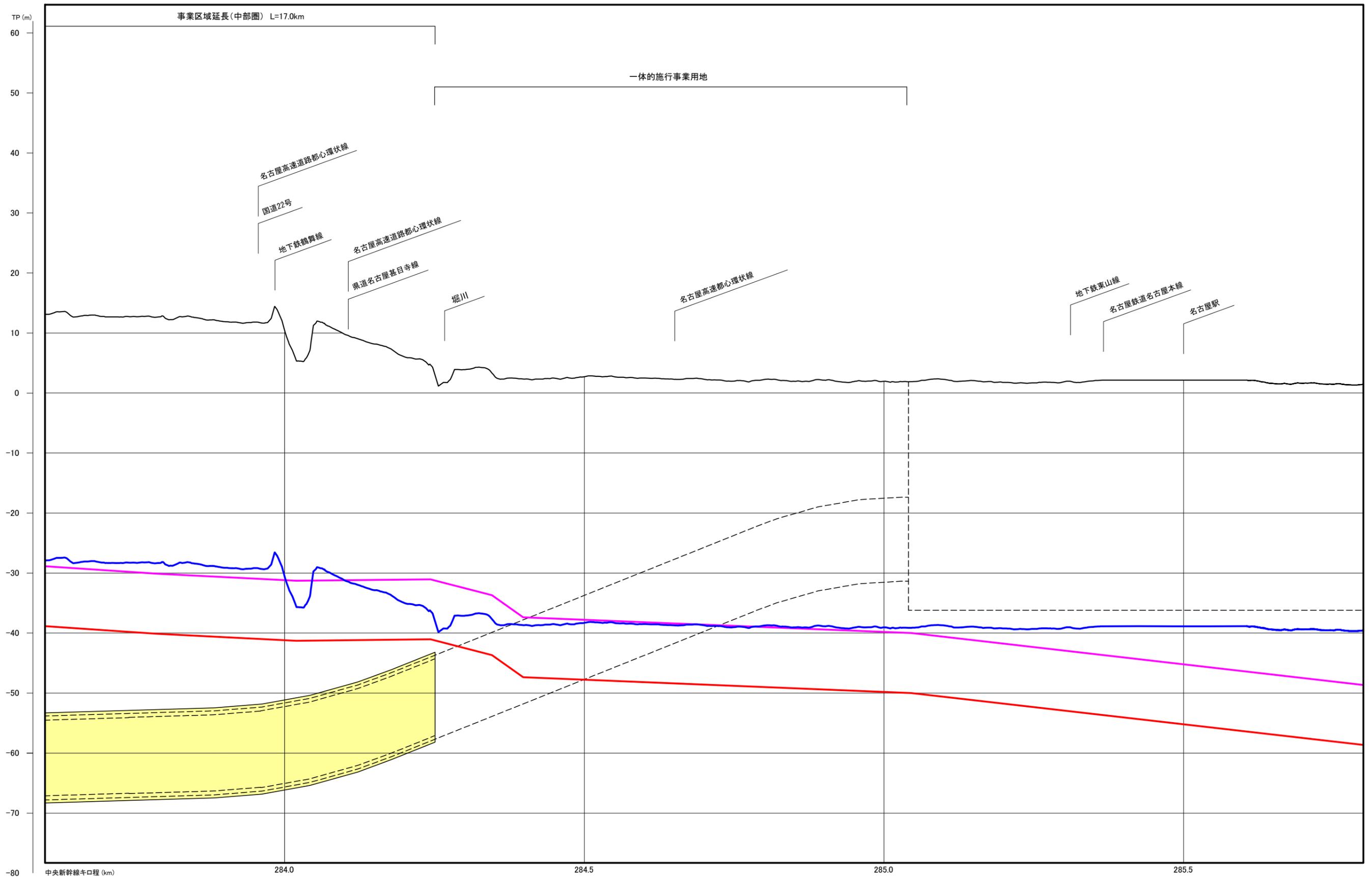
図5. 4. 30 大深度地下特定縦断図(中部圏 8 / 12) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1：駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2：河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3：この図面は、国土地理院の基盤地図情報を基に作成した図面（平成25情使、第867号）を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

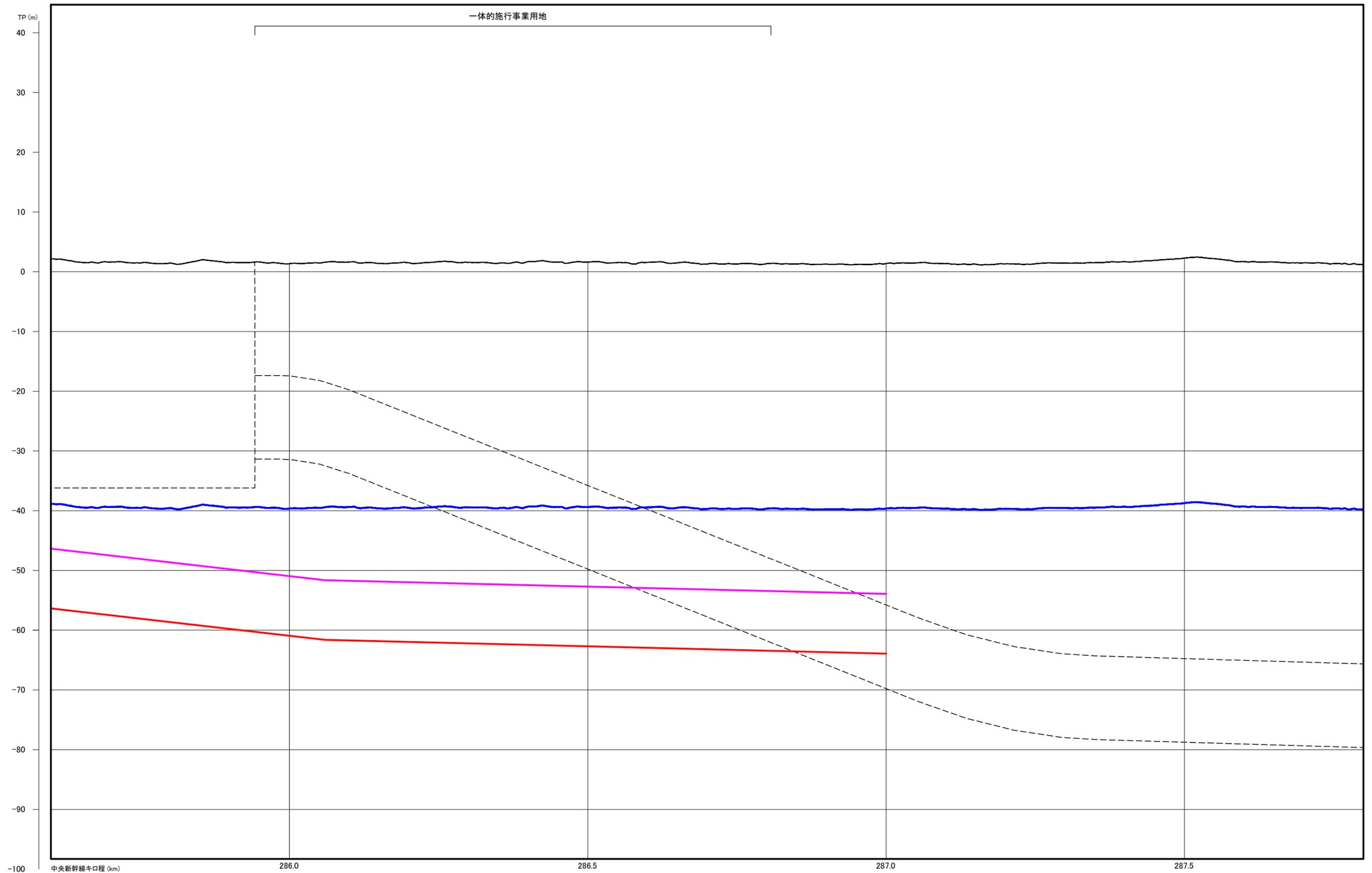
図5. 4.31 大深度地下特定縦断面図(中部圏 9 / 12) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1：駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2：河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3：この図面は、国土地理院の基盤地図情報を基に作成した図面（平成25情使、第867号）を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 — GL -41m — 支持地盤 — 支持地盤-10m

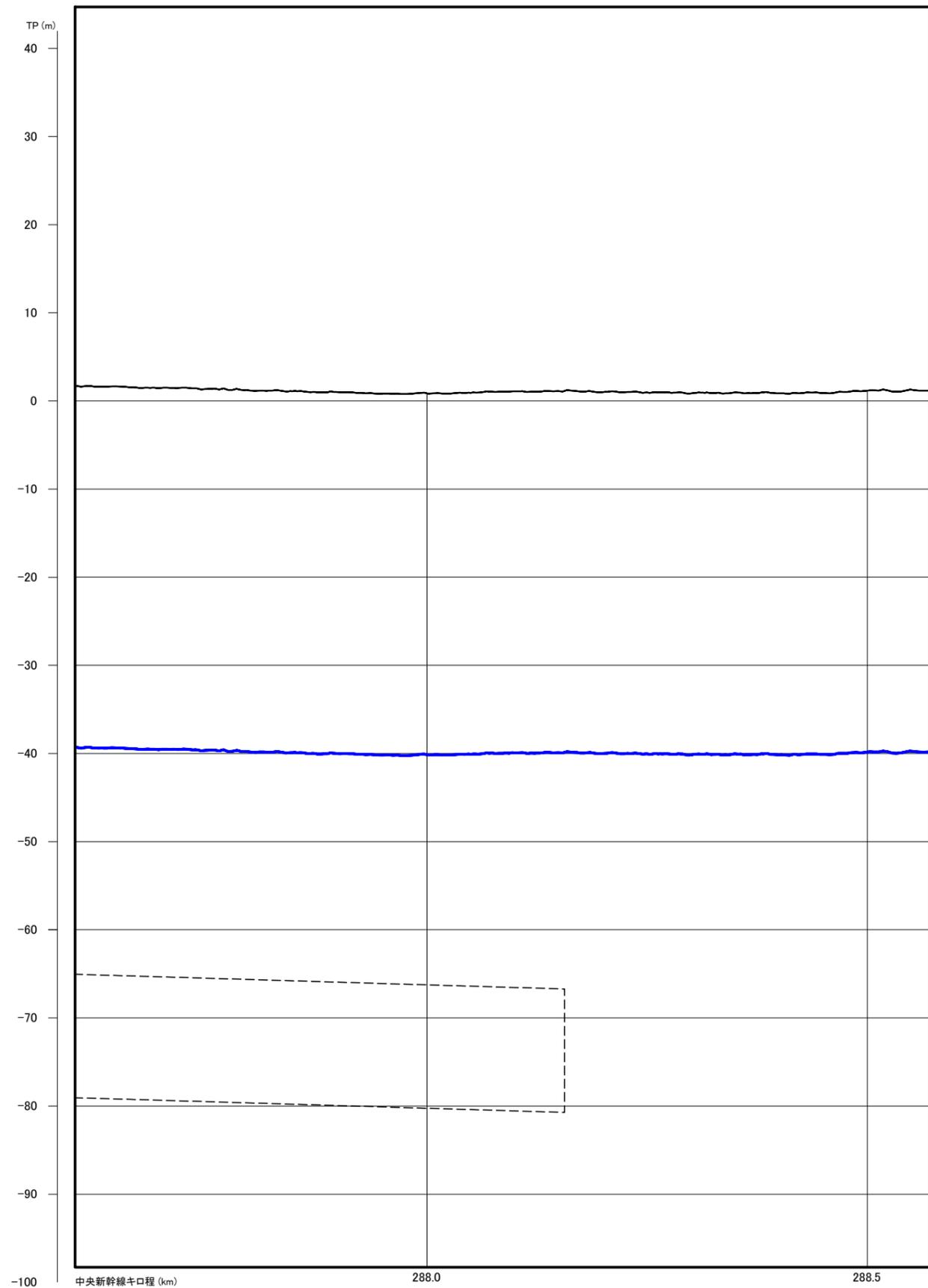
図5. 4.32 大深度地下特定縦断図(中部圏10/12) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1：駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2：河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3：この図面は、国土地理院の基盤地図情報を基に作成した図面（平成25情使、第867号）を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 — GL -41m — 支持地盤 — 支持地盤-10m

図5. 4.33 大深度地下特定縦断面図(中部圏11/12) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600



注1：駅部、非常口等については、概ねの位置・形状である。
 注2：河川区間の地表は、区間の両端を結んだ線としている。
 注3：この図面は、国土地理院の基盤地図情報を基に作成した図面（平成25情使、第867号）を編集等したものである。

[凡例] 大深度地下使用申請区域 GL -41m 支持地盤 支持地盤-10m

図5. 4. 34 大深度地下特定縦断図(中部圏12/12) 縮尺 H = 1:6,000 , V = 1:600